



令和4年度RESASを活用した 施策立案支援事業

～鹿角のきゅうりを盛り上げたい！～

秋田県鹿角市

01

はじめに ～令和3年度に行ったこと～

（１）「新たな鹿角流ビジネスモデルの構築に向けた課題と対策の検討」にむけて

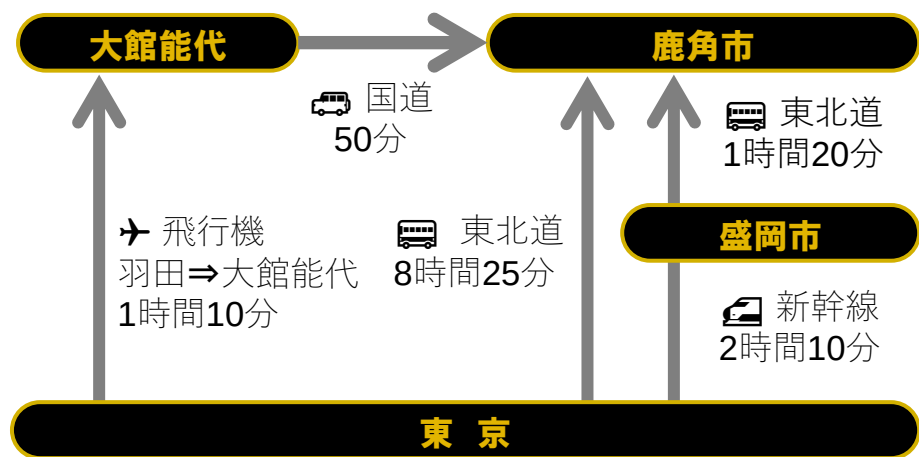
本市は、少子高齢化を要因として、産業各分野の担い手が減少、後継者不足になっている。また、多様な資源を抱えているものの、十分な付加価値を付けられず、稼げるポテンシャルを活かしきれていない。「稼げる産業」×「やりがいと楽しい産業」＝「やりたくなる仕事」となるような、鹿角市独自の新たなビジネスモデル構築に向け、取り組むべき課題を、鹿角市産業部及び総務部のメンバーにより、それぞれの担当分野である人口・産業・観光・農業・林業ごとに分析を行った。

（２）「RESASを活用した施策立案支援事業」の活用

地域の現状・実態を把握するツールとしてRESASを活用することし、施策立案に活用する手法について東北経済産業局の支援を受けながら、分析を実施した。産業分野、特に「製造業の労働生産性の向上」焦点を当て、ワークショップを経て、令和4年度の新規事業の立案を実施した。

鹿角市ってどこ？

北東北のちょうど 真ん中にあります



国立公園の大自然に囲まれた 多くの世界遺産を守り続けるまち

十和田八幡平国立公園の大自然に囲まれ、世界文化遺産と2つのユネスコ無形文化遺産を持つ全国でも類い希な文化都市です。

近代化産業遺産の史跡尾去沢鉱山と、2つの道の駅があり、観光及び産業の拠点となっています。

縄文時代から現代に至るまで、ここ鹿角市では様々な文化が生まれ、市民が大切に守り続けています。



鹿角市の産業の労働生産性は相対的に低い

産業構造マップ → 全産業 → 労働生産性（企業単位）

➤ 企業単位での労働生産性を産業別に表示

2016年 労働生産性（企業単位）すべての大分類



※労働生産性 = 付加価値額（企業単位） ÷ 従業者数（企業単位）で算出

労働生産性（企業単位）順位
鹿角市(2016)

秋田県内

17 位

全国

1,442 位

RESAS_総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工

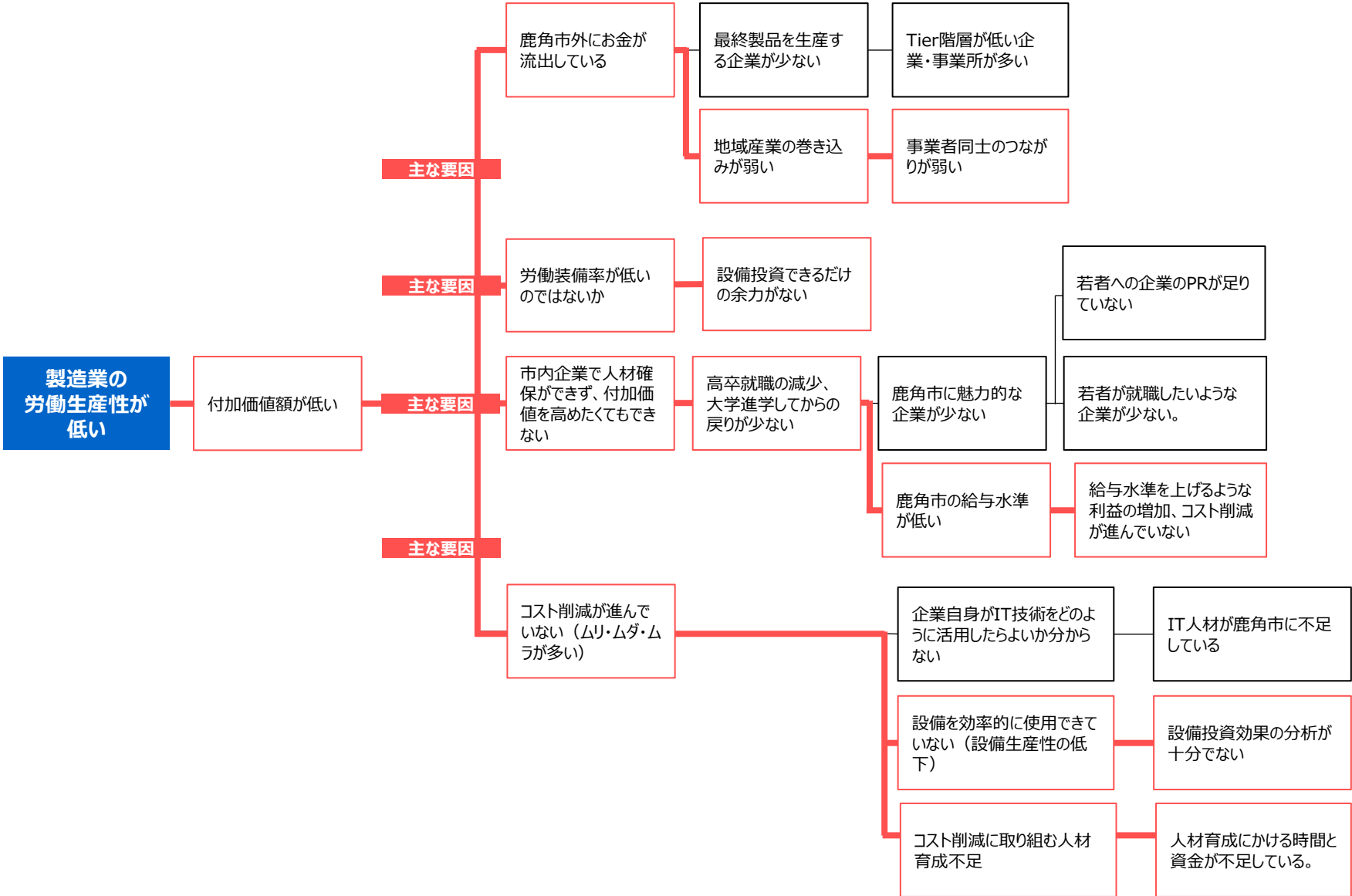
- 鹿角市の労働生産性は県、全国平均より低い。
- 近隣では、仙北市よりは高いが、大館市・小坂町・十和田市・八幡平市より低い。

鹿角市の強み・弱み・機会・脅威

内部環境	強み (strength)	弱み (weakness)
	- 生産額でみると、3次産業の中では電気業の割合が秋田県・全国平均よりも際立って高い。 - 稼ぐ力では「林業」、「農業」が高い。 「住宅賃貸業」、「電気業」は、比較的生産額が多く、域外からも稼いでいる産業である。 - 移輸出入収支では「電気業」、「農業」、「宿泊・飲食サービス業」等がプラスとなっており、域外から所得を得ている。 - 東北自動車道で北東北三県の主要都市と繋がっている。	- 鹿角市の労働生産性は相対的に低い。 - 介護事業や建設業など、社会保障費・公共事業費に依存する産業へのウエートが高く、稼げる産業が育っていない。 創業比率が低く、事業者の新陳代謝が進んでいない。 - 地域経済循環率が低い。 市民所得が低い。
外部環境	機会 (opportunity)	脅威 (threat)
	「脱炭素社会」への転換が世界的な潮流になっている。 - 半導体の国産化が進む。 - IoTやAIなどの進化により、労働力不足を補える可能性がある。 - 副業解禁に加え、コロナでテレワークが一気に進み、鹿角市外に転出しなくても働ける可能性がある。	- 全国的な人口減により、地方同士の人口の奪い合いが懸念される。 - ニプロ（大館市）の増設で、市内労働力のさらなる流出が懸念される。

注力すべき問題点：産業全体の労働生産性の低さ

製造業の労働生産性が低い要因を抽出



製造業の労働生産性を向上させるために



企業力強化促進事業

取組内容：産業コーディネーターを配置し、

①販路開拓、域内取引の拡大（継続）

【期待する効果】売上額の向上、移輸出入額の改善

②小集団改善活動の促進（継続）

【期待する効果】人材育成によるコスト削減

③財務分析（新規）

【期待する効果】個々の企業の課題を明確化

④DX推進（新規）

【期待する効果】コスト削減

鹿角市第7次総合計画との関連性

基本戦略1_活力を生む地域産業・生業を支える

取組方針1_地域産業の成長を支援します

②製造業の域際収支の改善を目指した産業の高付加価値化

解消したい要因

地場産業を巻き込めていない

給与水準が低い

設備投資効果の分析が十分でない

企業立地促進事業（高度化支援）

取組内容：設備投資の助成（継続）

【期待する効果】労働装備率の向上

鹿角市第7次総合計画との関連性

基本戦略1_活力を生む地域産業・生業を支える

取組方針1_地域産業の成長を支援します

①地域産業の自走力を高める経営基盤の強化

解消したい要因

設備投資して労働生産性向上につながっているものの、労働装備率や設備生産性が低下している企業もある

産業人材育成支援事業（研修・資格取得助成）

取組内容：従業員の研修・資格取得にかかる費用を助成（継続）

【期待する効果】人材育成によるコスト削減、売上向上

鹿角市第7次総合計画との関連性

基本戦略1_活力を生む地域産業・生業を支える

取組方針1_地域産業の成長を支援します

①地域産業の自走力を高める経営基盤の強化

解消したい要因

コスト削減に取り組む人材育成不足

人材育成にかかる時間と資金が不足している。

製造業の労働生産性を向上させるために



新たな取組み

- ・地域内連携事業（H28～R3）を発展させ、「**企業力強化促進事業**」として、産業コーディネーターを増員して実施。

③財務分析（新規）

【期待する効果】個々の企業の課題を明確化

- ・中小企業診断士に依頼し、決算書を分析して企業が取り組むべき個別課題を明確にする。



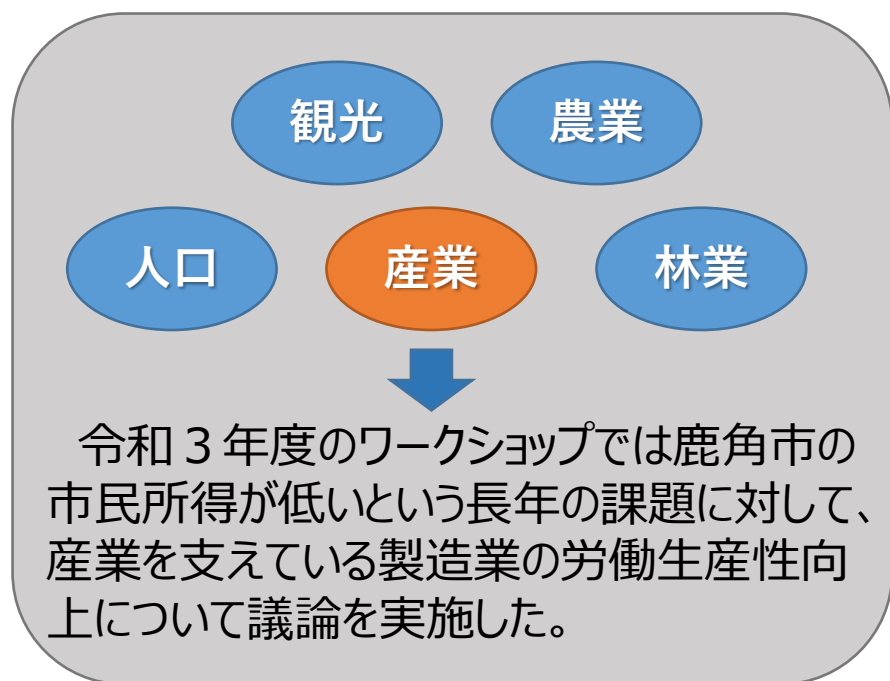
④DX推進（新規）

【期待する効果】コスト削減

- ・都市部に勤務するプロ副業人材と市内企業をマッチングさせ、DX導入によるコスト削減を図る。



令和4年度に取り組んだテーマ「農業」



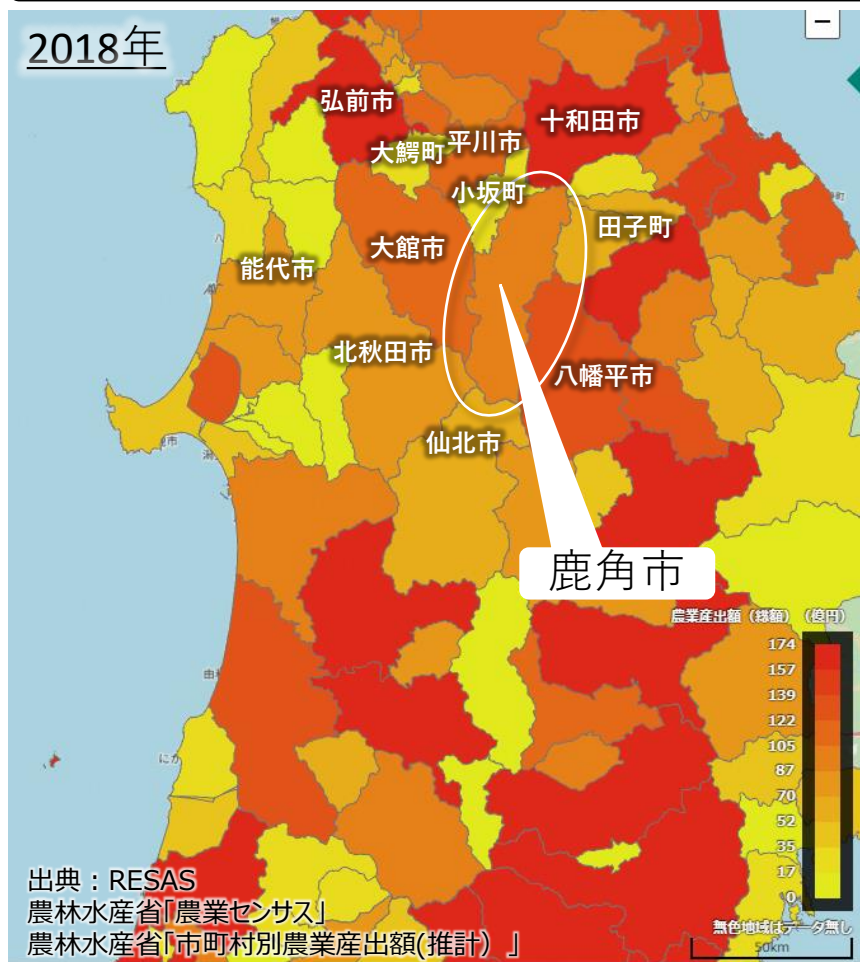
02

農業分析

鹿角市の農業の特徴

鹿角市の農業の特徴は？

産業構造マップ → 農業 → 農業算出額



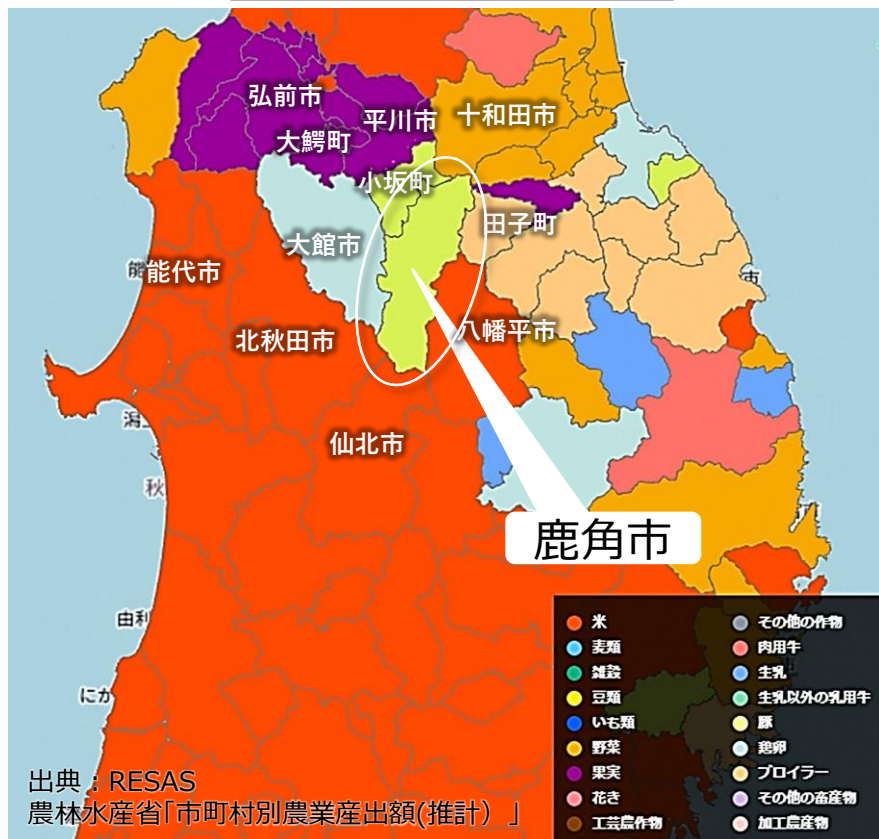
都道府県名	市区町村名	農業産出額計 (千万円)
青森県	弘前市	4,298
青森県	十和田市	2,465
岩手県	八幡平市	1,393
秋田県	大館市	1,205
青森県	平川市	1,171
秋田県	鹿角市	957
秋田県	能代市	853
秋田県	北秋田市	745
青森県	田子町	690
秋田県	仙北市	656
青森県	大鰐町	281
秋田県	小坂町	244

- 本市を中心とした、北東北の周辺市町村と農業産出額を比較すると中位に位置する。

鹿角市の農業の特徴は？

産業構造マップ → 農業 → 農業の構造

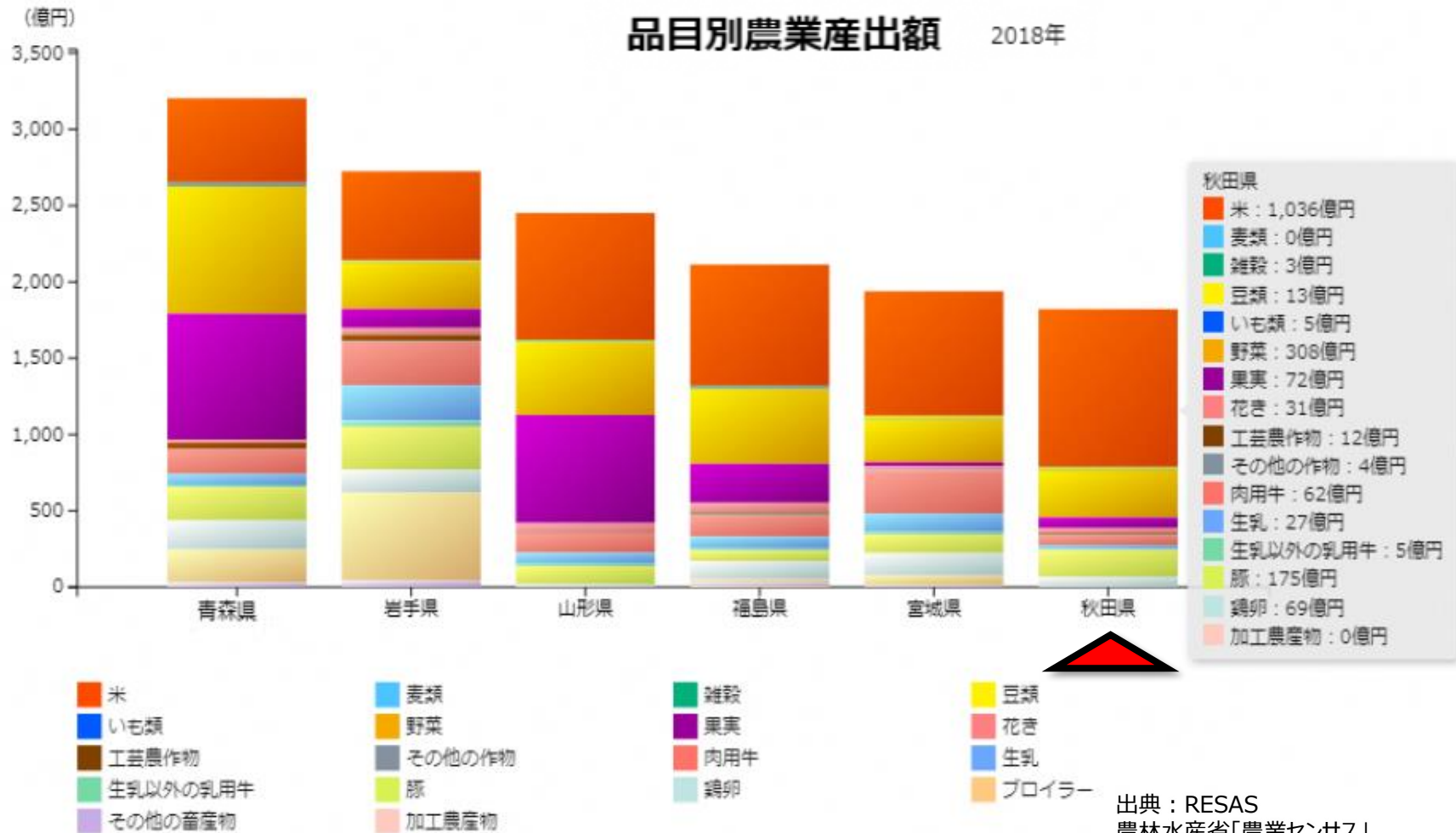
2018年の主要作物マップ



県名	市町村名	主要作物	主要作物の農業産出額(千万円)
秋田県	鹿角市	豚	378
秋田県	小坂町	豚	X(秘匿値)
秋田県	大館市	鶏卵	417
秋田県	北秋田市	米	359
秋田県	能代市	米	493
秋田県	仙北市	米	355
岩手県	八幡平市	米	226
青森県	弘前市	果実	3,576
青森県	十和田市	野菜	916
青森県	平川市	果実	680
青森県	大鰐町	果実	218
青森県	田子町	ブロイラー	131

- 秋田県内では、第1位の作物はほぼ米。米以外が1位なのは、鹿角市、小坂町、大館市の3市町のみ。一方、岩手県、青森県では米の1位市町村が少なくなる。ヤマセの地域とリンゴの地域の間位置している。

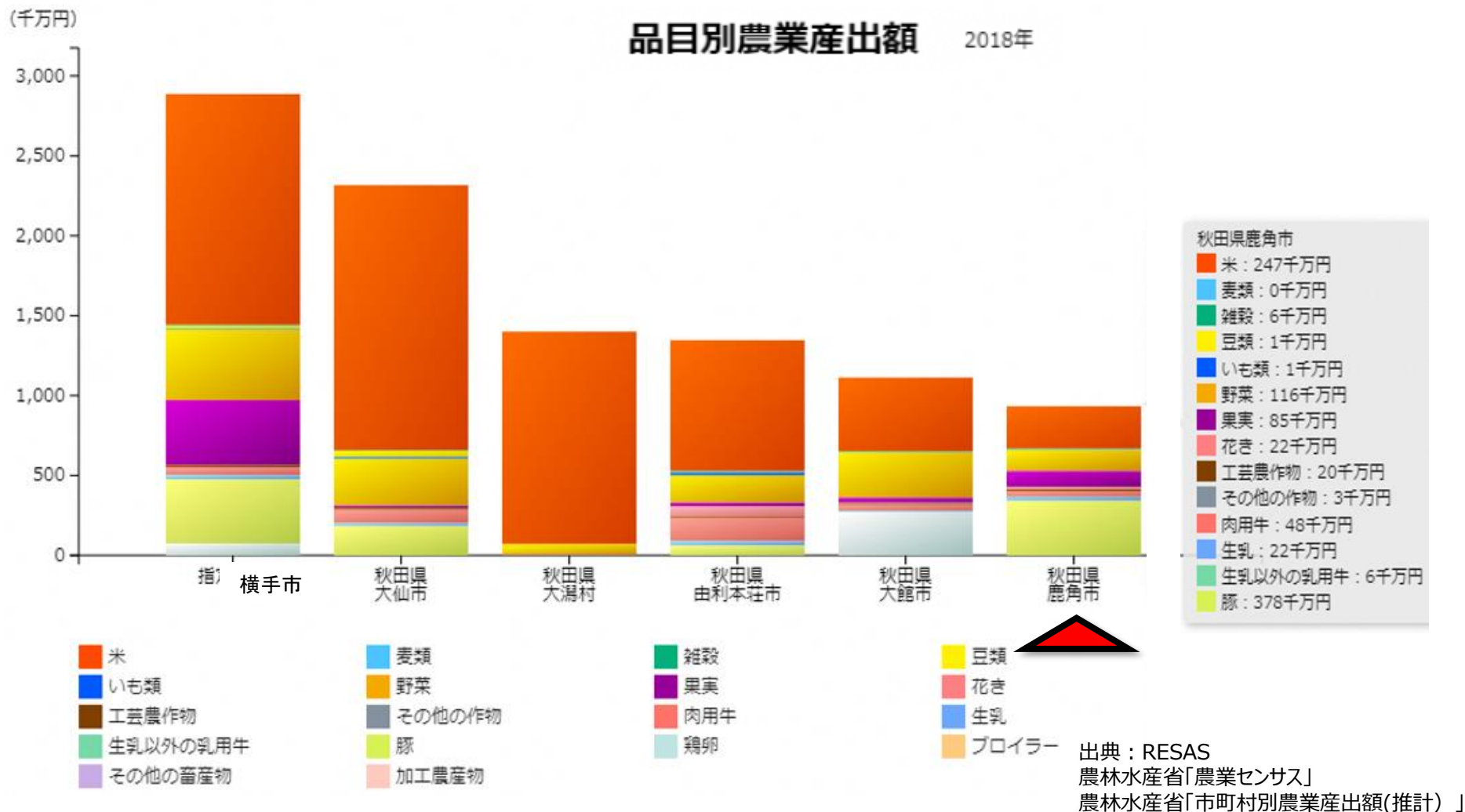
秋田県の農業産出額は？ -東北 6 県との比較-



出典：RESAS
農林水産省「農業センサス」
農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」

- 秋田県の農業産出額は東北最下位である。他県に比べ、米の割合が多く、過半を占めている。

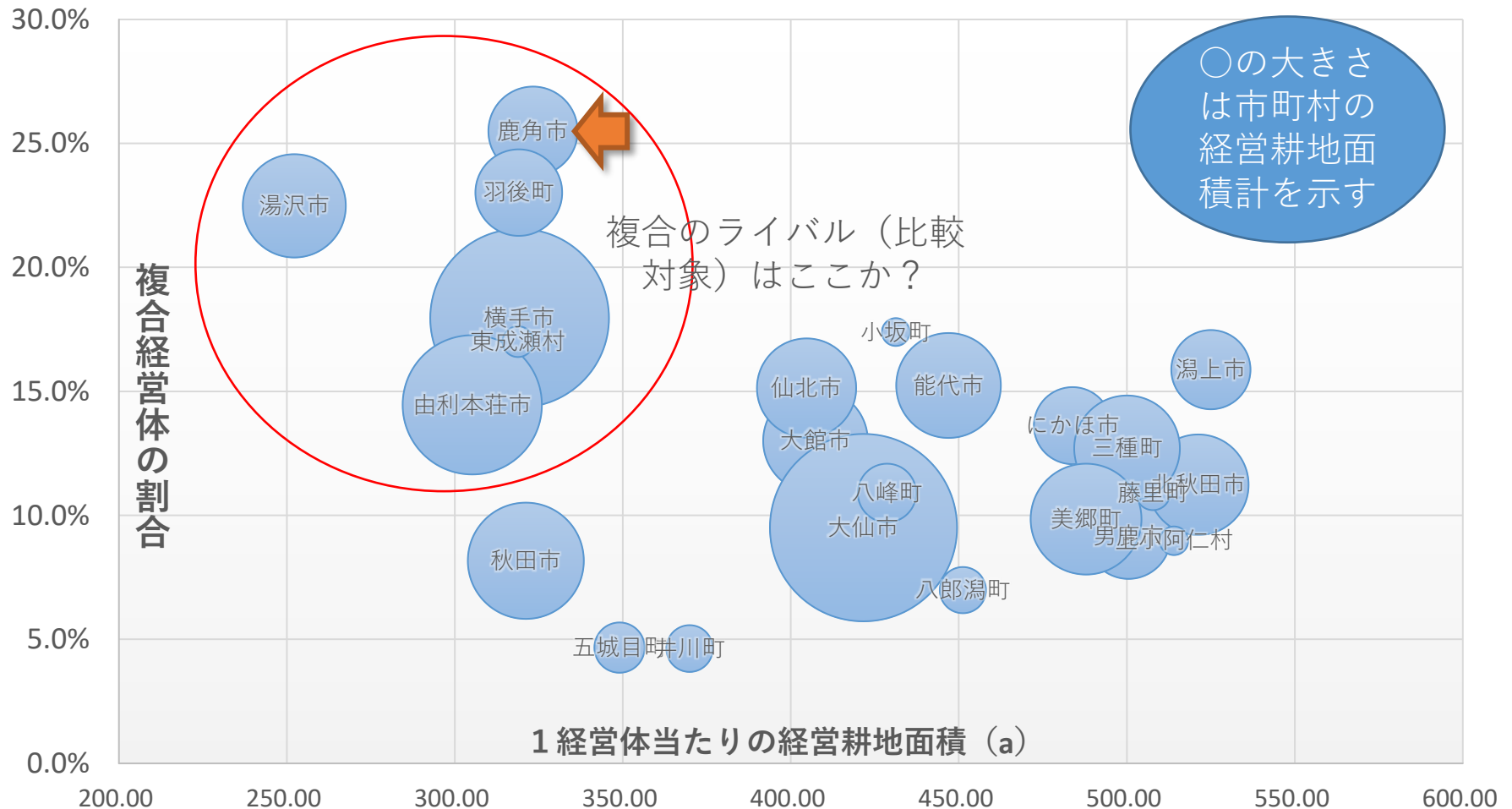
鹿角市の農業の特徴は？



- 平成30年度の鹿角市の産出額では秋田県内 第6位（957千万円）である。

鹿角市の農業の特徴は？

複合経営体と経営耕地面積の関係（2020農林業センサス 加工（大潟村除き））



- 1 経営体あたりの経営耕地面積が少ないほど複合経営が進んでいる傾向がある。
- 大潟村は右下に突出するため省略。
- 複合経営 強み（米価下落の影響が弱まる） 弱み（労働生産性低い？）

鹿角市の農業の特徴は？

販売額の県内順位（令和2年市町村別農業産出額）

区 分		産出額 計 ①+② +③	耕種計 ①	米	計	麦 類				計	雑穀		豆 類			計	い も 類	
						小麦	二条 大麦	六条 大麦	はだか 麦		計	そば	大豆	小豆	ばれい しょ		かん しょ	
産出額(1,000万円)		972	561	257	x	-	-	x	-	6	6	2	2	0	1	1	-	
県内順位	R2	7	11	16	5			1		1	1	15	15	10	19	19		
	R1	7	13	16	5	5				2	2	15	15	10	18	18		
	H30	6	13	16	3	3		1		2	2	18	18	12	15	15	10	
	H29	6	13	17	3	3				2	2	20	21	8	16	15	11	

区 分	計	野 菜																		その他
		だい こん	にん じん	さとい も	やまの いも	はくさ い	キャ ベツ	ほうれ んそう	レタス	ね ぎ	たまね ぎ	ブロッ コリー	きゅう り	な す	トマト	ピーマ ン	いちご	メロン	すいか	
産出額(1,000万円)	147	3	4	0	1	1	1	4	0	7	0	0	71	2	22	0	3	0	0	28
県内順位	R2	10	8	1	16	7	9	13	6	15	18	13	1	16	4	12	3	15	18	
	R1	11	8	1	15	7	9	11	6	15	18	15	1	16	4	9	3	14	18	
	H30	10	12	5	12	5	10	14	7	10	15	12	3	17	5	10	3	10	16	
	H29	11	12	5	13	5	10	13	7	8	15	12	3	18	5	8	3	10	14	

区 分	計	果 実														花 き
		みかん	りんご	ぶどう	日本な し	西洋な し	もも	おうとう	びわ	かき	くり	うめ	すもも	キウイ フルーツ	パイン アップル	
産出額(1,000万円)	123	-	81	1	0	1	40	-	-	0	-	-	0	-	-	12
県内順位	R2	3	2	7	13	5	1	-	-	2	-	-	6	-	-	7
	R1	3	2	7	13	5	1	-	-	2	-	-	6	-	-	7
	H30	3	2	8	14	7	1	-	-	-	7	-	4	3	-	5
	H29	3	2	8	14	8	1	-	-	-	10	-	4	3	-	5

区 分	計	工芸農作物					その他 作物
		さとう きび	葉たばこ	茶(生 葉)	てんさい	こんにゃ く	
産出額(1,000万円)	10	-	0	-	-	-	x
県内順位	R2	3	-	-	-	-	8
	R1	3	-	-	-	-	5
	H30	1	1	-	-	-	5
	H29	1	1	-	-	-	5

区 分	畜産計 ②	肉用牛	計	乳 用 牛		豚	計	鶏		その他 畜産物	計 ③	加工農産物	
				生 乳	乳 牛			鶏 卵	ブロイラー			荒茶	畳表
産出額(1,000万円)	411	37	25	21	4	348	0	-	x	1	-	-	-
県内順位	R2	4	5	6	6	3	12	-	4	8	-	-	-
	R1	3	5	6	6	3	12	-	4	8	-	-	-
	H30	3	4	5	5	3	13	-	4	6	-	-	-
	H29	3	5	5	5	3	13	-	4	5	-	-	-

- ・ 県内順位では、産地形成やブランド化を進めている作物の特徴が出ている。
- ・ 意外なのがいちご。①湯沢市、②羽後町について3位。
- ・ 統計データには、市でブランド化を進めている作物（淡雪こまち、枝豆、しぼり大根、シテッポウリ、啓翁桜など）単独の産出額がないものも多い。

鹿角市の農業の特徴は？

産出額の全国順位（令和２年市町村別農業産出額）

区分	産出額 計 ①+② +③	耕種計 ①	米	計	麦類				計	雑穀		計	豆類		計	いも類	
					小麦	二条 大麦	六条 大麦	はだか 麦		そば			大豆	小豆		ばれい しょ	かん しょ
産出額(1,000万円)	972	561	257	x	-	-	x	-	6	6		2	2	0	1	1	-
全国 順位	R02	277	305	158	682		166		26	21	391	313	295	1115	940		
	R01	290	324	163	686	563			43	38	297	224	320	927	675		
	H30	281	345	186	651	532	153		36	33	486	367	526	811	526	1092	
	H29	302	399	218	577	460			60	54	635	549	302	806	570	1091	

区分	計	野菜																		その他
		だいご ん	にんじ ん	さとい も	やまの いも	はくさ い	キャバ ツ	ほうれ んそう	レタス	ねぎ	たまね ぎ	ブロッ コリー	きゅう り	なす	トマト	ピーマ ン	いちご	メロン	すいか	
産出額(1,000万円)	147	3	4	0	1	1	1	4	0	7	0	0	71	2	22	0	3	0	0	28
全国 順位	R02	392	345	156	992	247	358	650	307	763	380	1226	1183	38	688	213	715	566	524	940
	R01	437	348	309	1000	188	376	575	304	657	389	1183	1183	38	685	224	651	557	520	913
	H30	488	488	318	773	147	455	676	439	828	358	1282	993	66	725	233	572	581	321	787
	H29	553	600	482	820	171	634	758	484	760	444	1300	1021	86	711	269	513	570	327	801

区分	計	果実														花き
		みかん	りんご	ぶどう	日本な し	西洋な し	もも	おうと う	びわ	かき	くり	うめ	すもも	キウイ フルーツ	パイン アップル	
産出額(1,000万円)	123	-	81	1	0	1	40	-	-	0	-	-	0	-	-	12
全国 順位	R02	156	37	510	648	68	23			579			358			485
	R01	181	37	503	633	62	45			467			353			474
	H30	204	38	516	666	87	51				691		249	536		332
	H29	205	38	553	666	103	48				719		246	561		354

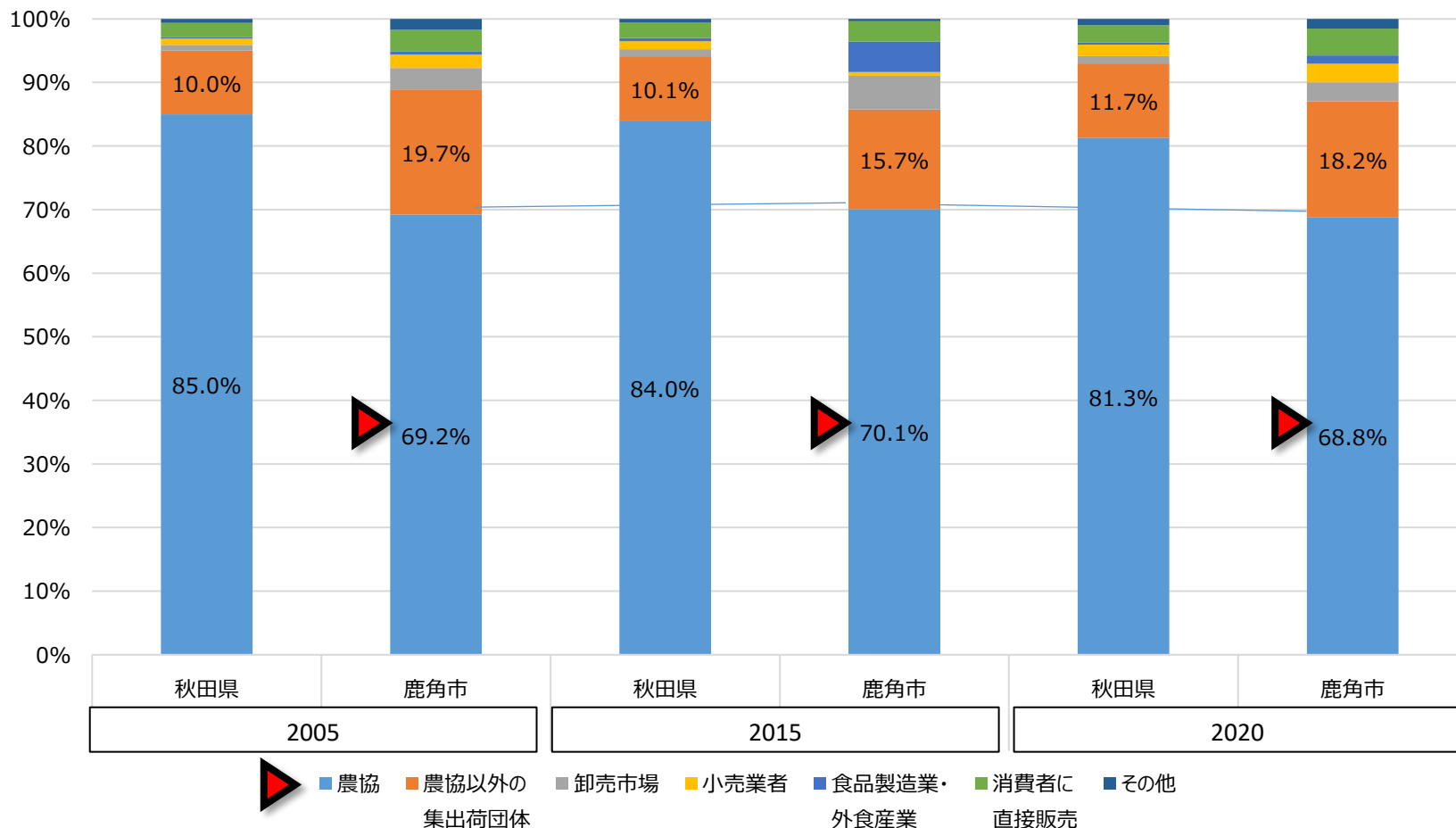
区分	計	工芸農作物					その他 作物
		さとう きび	葉たばこ	茶(生 葉)	てんさ い	こんにゃく いも	
産出額(1,000万円)	10	-	0	-	-	-	x
全国 順位	R02	224					525
	R01	217					531
	H30	173	44				480
	H29	160	35				514

区分	畜産計 ②	肉用牛	計	乳用牛		豚	計	鶏		その他 畜産物	計 ③	加工農産物	
				生乳	乳牛			鶏卵	ブロイ ラー			荒茶	畳表
産出額(1,000万円)	411	37	25	21	4	348	0	-	x	1	-	-	-
全国 順位	R02	221	398	476	474	402	856		370	298			
	R01	224	417	460	473	364	874		370	295			
	H30	191	362	468	487	363	932		395	215			
	H29	190	443	450	476	318	937		395	256			

- 特徴的な作物を黄色で着色。
- 時期や季節での特徴的なものもあるかもしれない（年額では把握できない）。
- 全国順位になると、県内順位に比べ途端に特徴がなくなる。

鹿角市の農業の特徴は？

農産物販売金額 1 位の出荷先（農林業センサス）

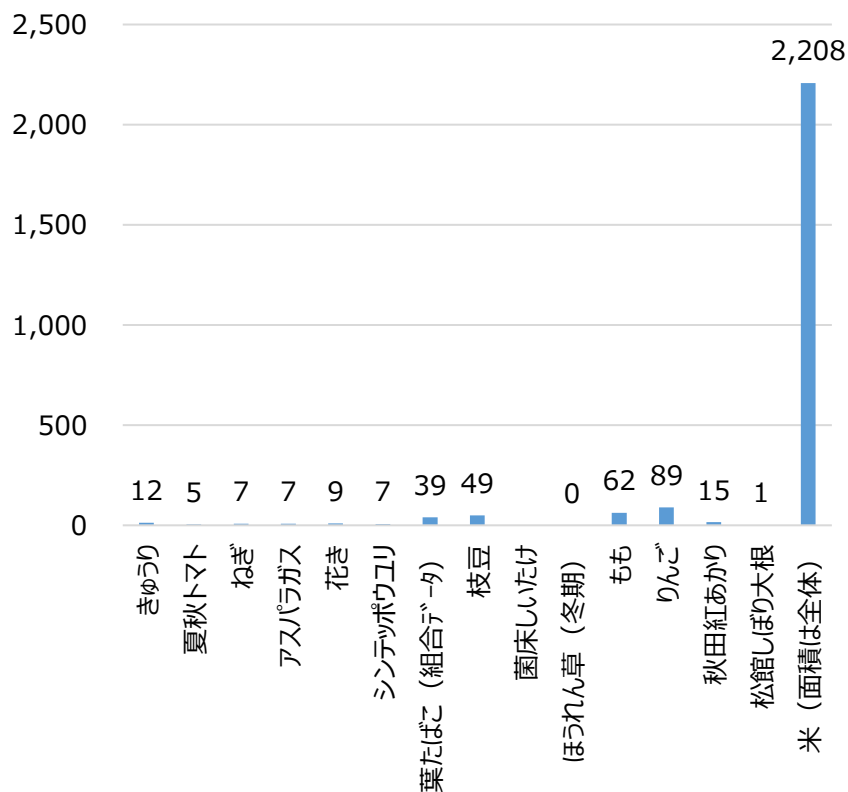


- 県全体での J A への出荷比率は下落傾向
- 鹿角市の J A への出荷比率は微減

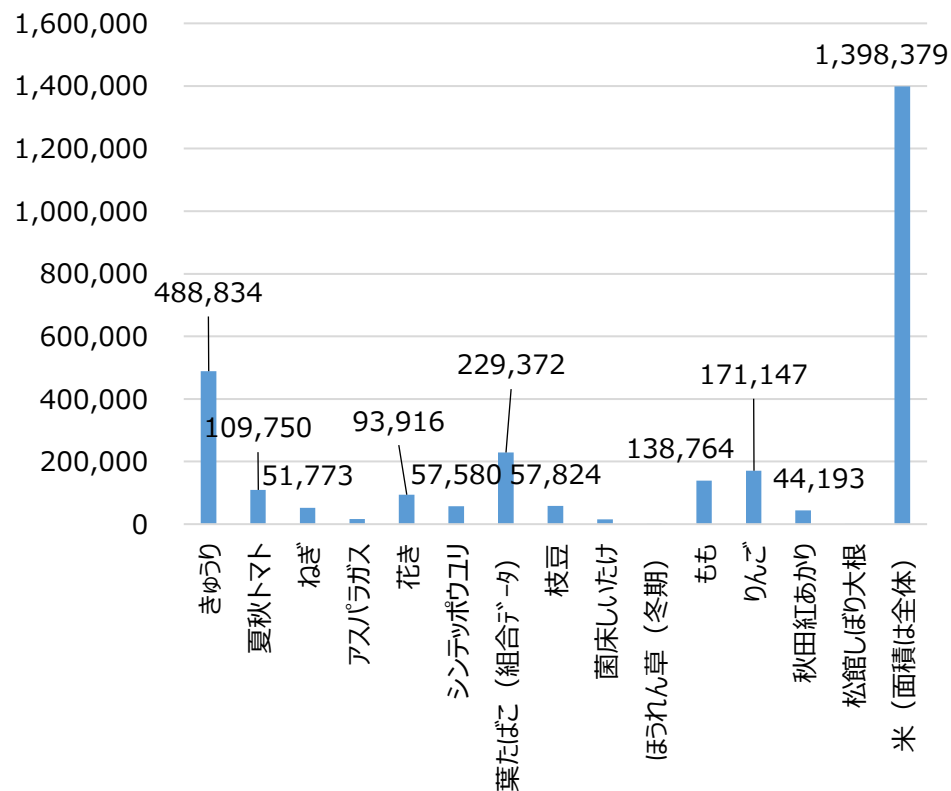
課題を裏付けるデータ

主要作物の作付面積および販売額（R2 J A かつのデータ）

面積（ha）



販売額（千円）

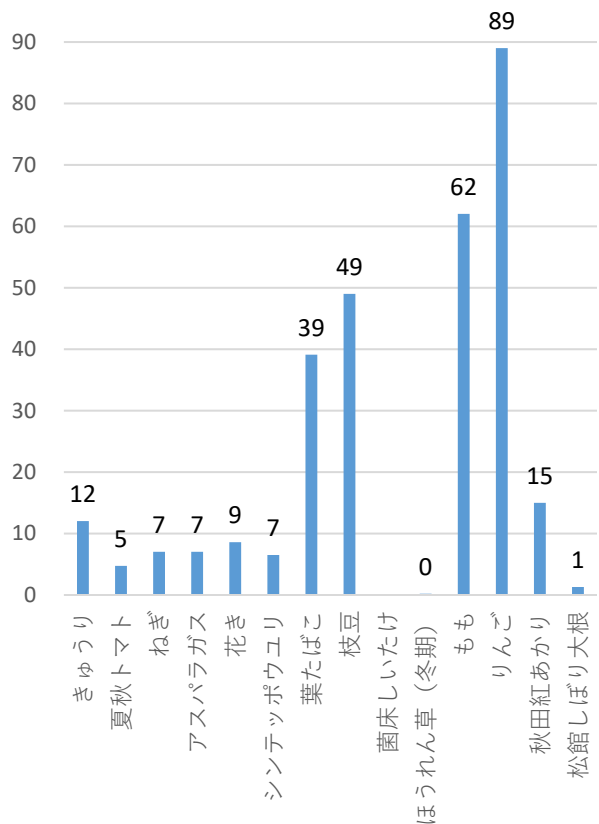


- 面積、販売額ともに米の占める割合が圧倒的に多い。
- 圧倒的な稼ぎ頭の米に需要減という大きな課題がある。コロナ前からの需要減少傾向とコロナによる需要減を踏まえ、米を品種ごと、販売先ごとにどのように有利販売するか検討が必要。

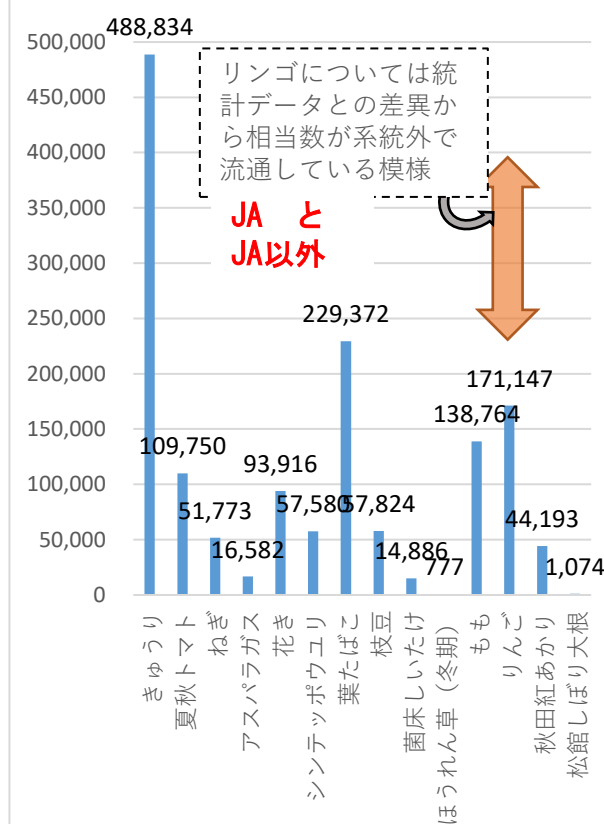
課題を裏付けるデータ

米以外の主要作物の作付面積および販売額（R2 J A かつのデータ）

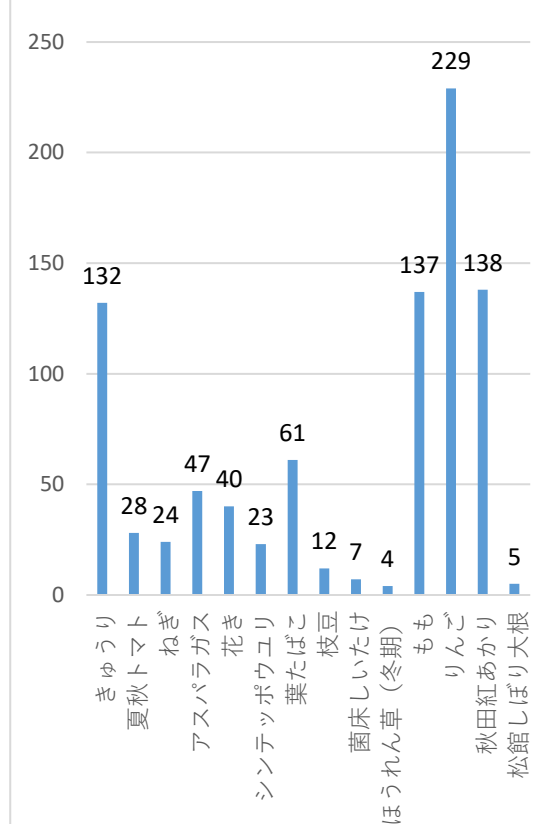
作付面積_米除き (ha)



販売額_米除き (千円)



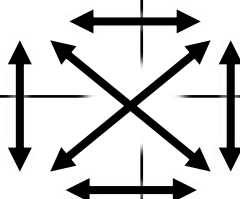
生産者数_米除き (戸)



- 面積はりんご、もも、えだまめ、葉たばこの順に多い。もも生産者数はりんごの内数。
- 販売額はきゅうり、葉たばこ、りんご、ももの順に多い。りんご・ももはJA以外の出荷も多い。
- 複合経営を特色づけるこれら作物の方向性を作物ごとに分析し、示す必要がある。
- 面積、販売額、生産者数は比例しない（面積当たりの販売額の違いをどうとらえるか）
- 時間当たり、人数あたりの販売額、労働生産性はどうなのか？

課題の整理（農業生産と流通）

	課題を抱える作物	伸びしろがある作物
J A 系 統 出 荷	<現状維持> ○米、りんご ※人材確保・省力化へテコ入れ ※多数が取り組める有利販売につながる生産方法や市場分析を実施	<作付け拡大> ○桃：市場に求められている。今まで以上に作付け拡大を推進 ○きゅうり：作りやすさから新規就農者が多い。時期分散など市場分析が必要 ○ネギ：法人参入により伸びている。人材確保、生産確立、市場分析。
J A 以 外 へ の 出 荷	<個人販売・売り先拡大> ○りんご：ふるさと納税などをきっかけに有利販売の環境整備し広げていく ○そば：まずは面積拡大をおさえ、適正管理に切り替え。他産地を参考に品質を向上して有利販売へ。	<生産・流通へ仕掛け> ○いちご：実は県内でも生産上位。北東北にも観光いちご園はあるものの、道の駅と結びつけはまだないのでは。 ○米：JA・主食業者との調整も必要だが、ふるさと納税や精米販売に可能性があるのでは。 観光・食品製造との連携



農業産出額を向上させるために



「農業生産」への対応策（内部的）

◆省力化・収量増

・スマート農業推進事業（拡充）

・各種機械等導入支援に関する事業（継続）

【期待する効果】高齢化への対応。収量・品質の増加。

野菜等
米

◆人手不足

・農業サポーターマッチング事業（拡充）

・新規就農者育成支援事業（拡充）

【期待する効果】人材確保による生産拡大、有利販売への取り組み

りんご
きゅうり

◆大規模化

・農地集積促進事業、県営基盤整備事業（継続）

【期待する効果】農地集積・集約による生産コストの削減

米
野菜団地

鹿角市第7次総合計画との関連性

基本戦略1_活力を生む地域産業・生業を支える

取組方針1_地域産業の成長を支援します

③効率的な農林業経営による経営安定と競争力の強化

④生産基盤の整備による農業生産力の維持・向上

取組方針2_市民等の意欲ある就労・就農を支援します

③農林業の担い手育成と定着支援

解消したい要因

法人の許容面積が限界に近いのではないかな

人手が足りていないのではないかな（人件費捻出できない？単なる人材不足？）

省力栽培技術が無い、もしくは普及されてないのではないかな

農業をしたいと思わないのではないかな

マーケットインの考えでつなぐ（作物ごとにフォーカスを当て、SWOT分析、要因分析）

「流通経路」への対応策（外部的）

◆価格へ転嫁できる取り組み

・農畜産物販売促進事業、アグリビジネス支援事業（継続）

【期待する効果】

ブランディング

域内流通（観光・食品製造との連携）

他市場、ふるさと納税、ECサイト

系統出荷（まずはゼロ予算、県・JAと連携）

栽培方法、GI

いちご

米

きゅうり、ネギ

鹿角市第7次総合計画との関連性

経営戦略1_まちに人・モノ・外貨を呼び込む

取組方針23_販売重視型農業と6次産業化を進めます

①、②、③

解消したい要因

価格に反映できるような鹿角の農業の強みが見えていないのではないかな

販売額が低いからではないかな

特色と課題を再整理

鹿角市の農産物は**特色が多い**

作物・流通経路の組み合わせで
課題・対策が分岐する

＜要素を減らし整理する＞

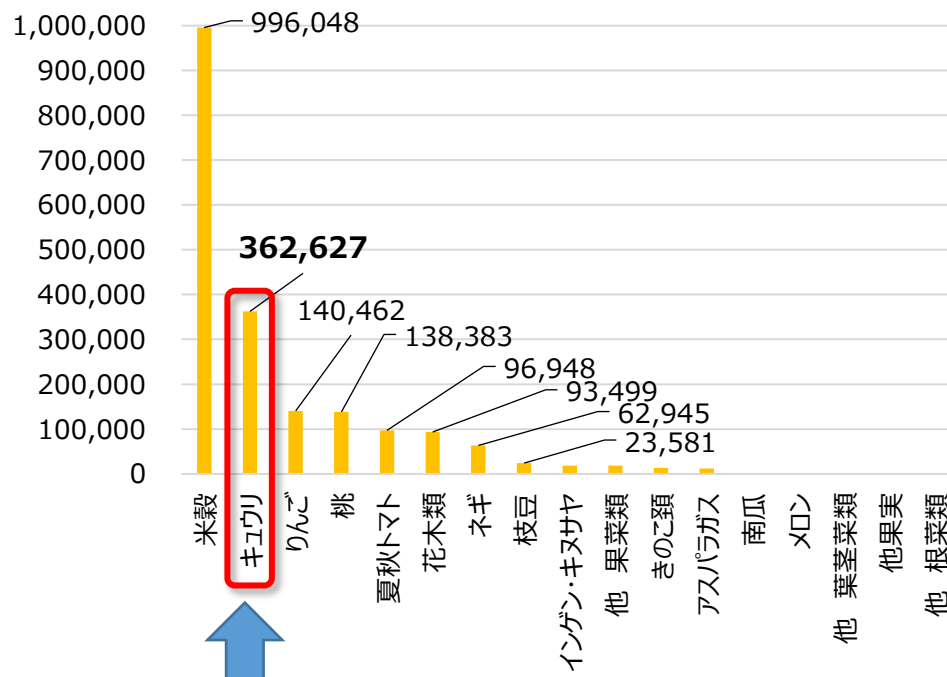
農業生産(作物ごと)
流通経路(市場・外)

作物ごとに課題整理

**JA販売額第2位で、10a当たりの
単収(※)が増加しているきゅうりに着目**

※単収とは…一定面積(10aが通常)あたりの収量(kg)

JAかつの令和3年度 販売額 (千円)



きゅうり

年度	戸数 (戸)	面積 (ha)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)
21	231	21.4	1,656.0	8,056
22	212	20.2	1,710.5	8,900
23	179	17.8	1,692.3	9,756
24	173	17.1	1,812.7	11,241
25	156	15.5	1,665.3	11,600
26	146	13.8	1,640.5	11,888
27	142	11.8	1,604.4	13,597
28	142	11.7	1,626.0	13,897
29	138	10.8	1,452.0	13,444
30	132	10.4	1,368.0	13,154
R 1	132	10.4	1,559.6	14,996
R 2	132	12.0	1,465.9	12,216
R 3	134	10.4	1,518.3	14,599

JA かつの販売実績 (鹿角市分)

03

農業分析

鹿角市のきゅうりの特徴

秋田県内での鹿角産きゅうりの立ち位置は？

2020センサス 販売目的のキュウリの作付面積

市町村	きゅうり（経営体数）										施設									
	経営体数	順位	露地					経営体数	順位	面積（a）	順位	施設					経営体数	順位	面積（a）	順位
			経営体数	順位	面積（a）	順位	1経営体あたりの面積	順位				経営体数	順位	面積（a）	順位	1経営体あたりの面積				
1 秋田県	846		638		6,617		10.4		294		1,585		5.4							
2 鹿角市	122	2	120	1	2,246	1	18.7	1	18	7	96	7	5.4	4						
3 横手市	139	1	110	2	1,435	2	13.0	4	48	1	216	3	4.5	6						
4 湯沢市	85	3	60	3	694	3	11.6	5	38	2	423	1	11.1	2						
5 由利本荘市	58	6	38	7	553	4	14.6	2	24	5	45	8	1.9	11						
6 羽後町	45	9	34	8	452	5	13.3	3	18	7	236	2	13.1	1						
7 北秋田市	45	9	39	6	419	6	10.7	6	7	12	34	9	4.8	5						
8 大館市	49	7	29	9	172	7	5.9	10	26	4	109	6	4.2	7						
9 秋田市	66	5	51	5	150	8	2.9	14	17	9	22	11	1.3	14						
10 大仙市	78	4	55	4	140	9	2.5	16	31	3	129	5	4.2	8						
11 三種町	18	13	12	12	74	10	6.2	8	6	14	14	13	2.3	10						
12 美郷町	30	10	16	10	63	11	3.9	11	18	7	182	4	10.1	3						
13 仙北市	19	12	14	11	44	12	3.1	12	6	14	23	10	3.8	9						
14 能代市									12	10	16	12	1.4	13						
15 五能町									1	20	18		##							
16 大館市									9	11	13	14	1.4	12						

農事組合法人 なごみ



項目	内容
法人設立月日	H31.2.5
参加農家戸数	13戸
経営面積	20.3ha (地区内14.2ha、地区外6.1ha)
作付作物	水稲 18.4ha(加工用米含む) キュウリ 1.9ha
特 色	・園芸メガ団地事業(サテライト型)を活用し キュウリを栽培。 ・収穫や選別作業の労力は、地域雇用で対応。

「なごみ」サテライトメガ団地の特徴

- ①(農)メガファーム(十文字町)と連携
統一ブランド・パッケージでの市場出荷
スケールメリットの発現 ⇒ **販売競争力強化**
- ②防虫ネットハウス栽培の導入
・自然災害(降雹、強風、豪雨など)に強い
・ハチによる受粉 ・害虫の侵入を抑制
農業の使用と風雨等による作物の損傷を低減
品質・付加価値の向上と販売収量の増加
- ③作型の組み合わせによる多様化・効率化
ビニールハウス、ネットハウス、露地栽培の
3つの作型の組み合わせ
「出荷時期の長期化」「労力の平準化」



(農)なごみ サテライトメガ団地 ほう配配置図



図1 横手市の位置図



2 産地栽培カレンダー

当地におけるきゅうりの取り組みは、昭和53年頃に行われた水田利用再編を契機に転作物として開始され、近年の栽培面積も増加傾向で推移している。

現在、きゅうりに取り組む生産者は91名、栽培面積14.01ヘクタールで内訳は露地栽培が79%、施設栽培が21%の典型的な露地主体の作型であるが、近年は防虫ネット作型が増加しており13%までに拡大している(図2)。なお、作型別の栽培体系は図3のとおり。

一戸当たり栽培面積は15.4アールと小規模だが、近年は県の園芸メガ団地育成事業^(注)を活用し、1ヘクタール以上の大規模経営体が参入している(令和3年度:3人)。

(注):園芸メガ団地育成事業とは、品目を極力集約し、団地化により販売額1億円を目指すことを目的に実施された農単独事業である。JAが事業実施主体となった場合は事業費負担は、県1/2、市町村1/4、JA1/4となり、生産者は初期投資を極力抑え取り組むことが可能となる。

図2 きゅうり作型別栽培面積の推移

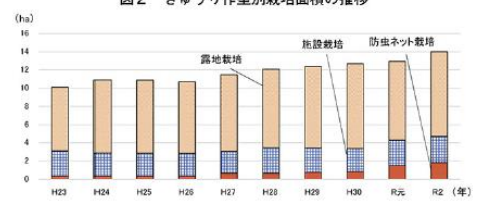


図3 きゅうりの作型別栽培体系

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
半促成												
抑制												
露地												
ネット												

注:○は播種、△は定植、▲は収穫を示す。

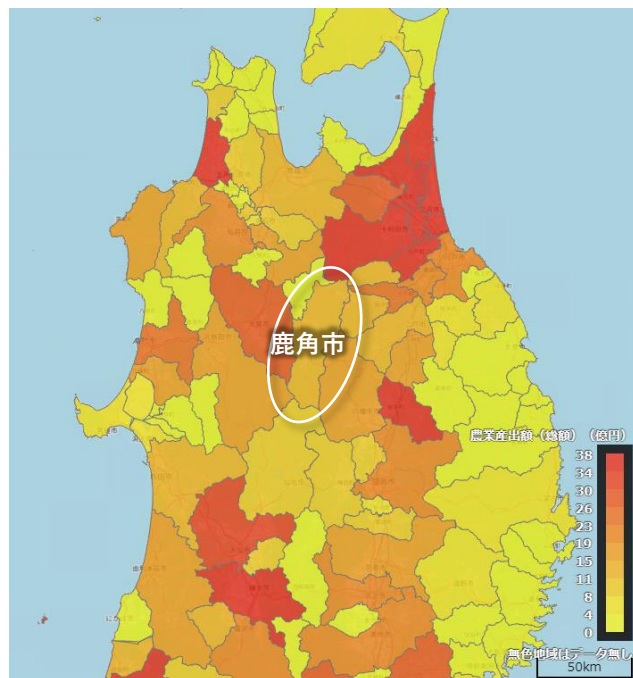
秋田県内でのきゅうり産出額の比較

産出額の県内順位（令和2年市町村別農業産出額）

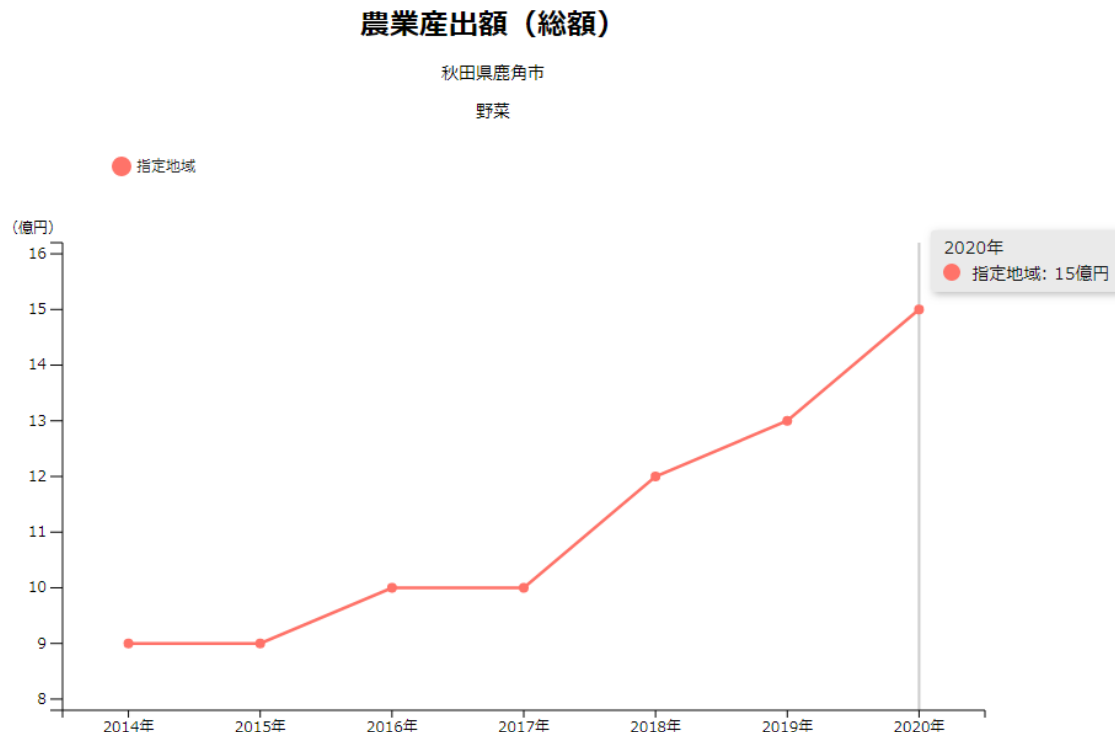
R2年 農業産出額（キュウリ）				R1年 農業産出額（キュウリ）			
	産出額 (1,000万 円)	県内順位	全国順位		産出額 (1,000万 円)	県内順位	全国順位
鹿角市	71	1	38	鹿角市	57	1	38
横手市	50	2	51	横手市	40	2	54
湯沢市	34	3	87	湯沢市	27	3	94
羽後町	21	4	142	羽後町	17	4	151
由利本荘市	18	5	166	由利本荘市	15	5	174
北秋田市	14	6	221	北秋田市	11	6	233
大館市	9	7	326	大館市	7	7	355
大仙市	8	8	339	大仙市	7	8	360

- きゅうりの農業産出額は2年連続県内第一位。
- 露地栽培での単収の高さ＝技術力の高さが要因と考えられる。

きゅうりの販売額の伸び悩み



出典：RESAS
農林水産省「農業センサス」
農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」

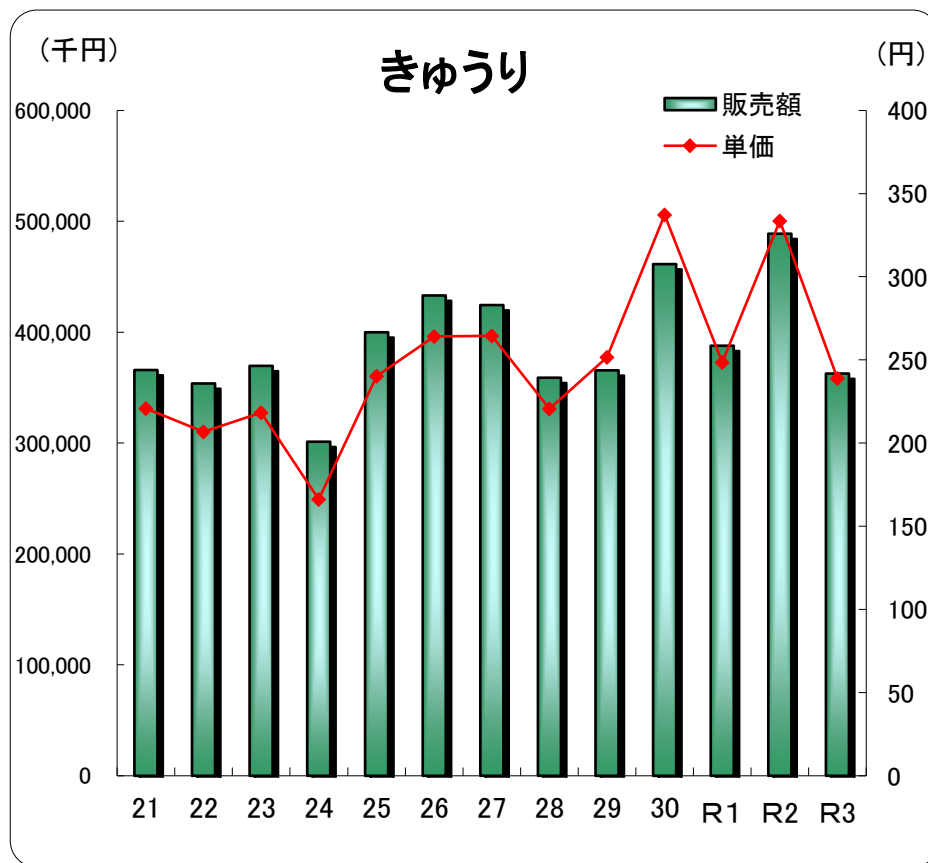


計	野 菜																			その他
	だいこん	にんじん	さといも	やまのいも	はくさい	キャベツ	ほうれんそう	レタス	ねぎ	たまねぎ	ブロッコリー	きゅうり	なす	トマト	ピーマン	いちご	メロン	すいか		
147	3	4	0	1	1	1	4	0	7	0	0	71	2	22	0	3	0	0	28	
127	3	1	0	1	1	1	4	0	6	0	0	57	2	20	0	3	0	0	28	
116	2	1	0	2	1	1	3	0	7	0	0	39	2	23	1	3	1	0	30	
101	2	1	0	1	1	1	3	0	6	0	0	30	2	19	1	3	1	0	30	

- 2020年の農業産出額(野菜)は14億7千万円で近隣市町村のなかでも平均に近い。
- 統計データでは野菜の産出額は増加傾向であり、そのけん引役は「きゅうり」である。
- 一方でJAかづのの販売額では・・・

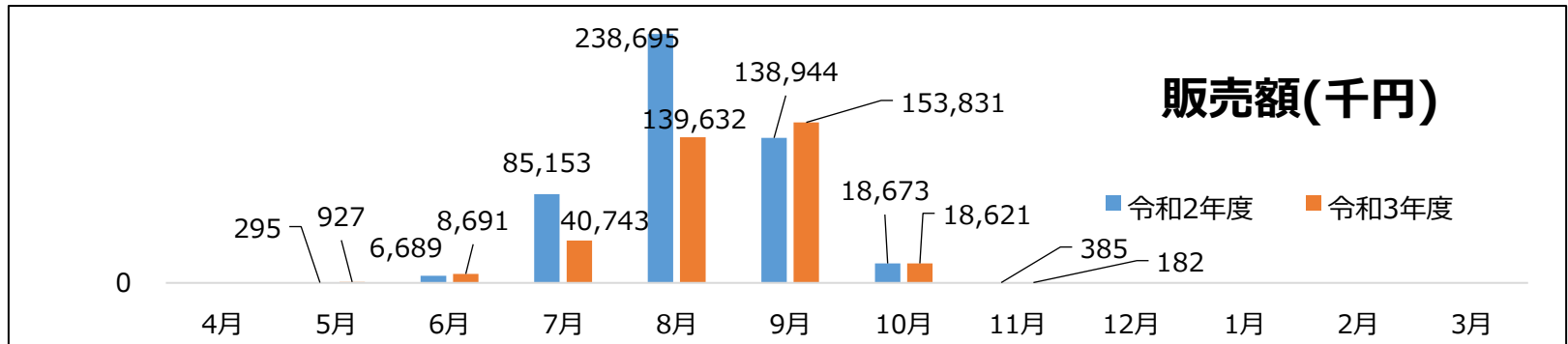
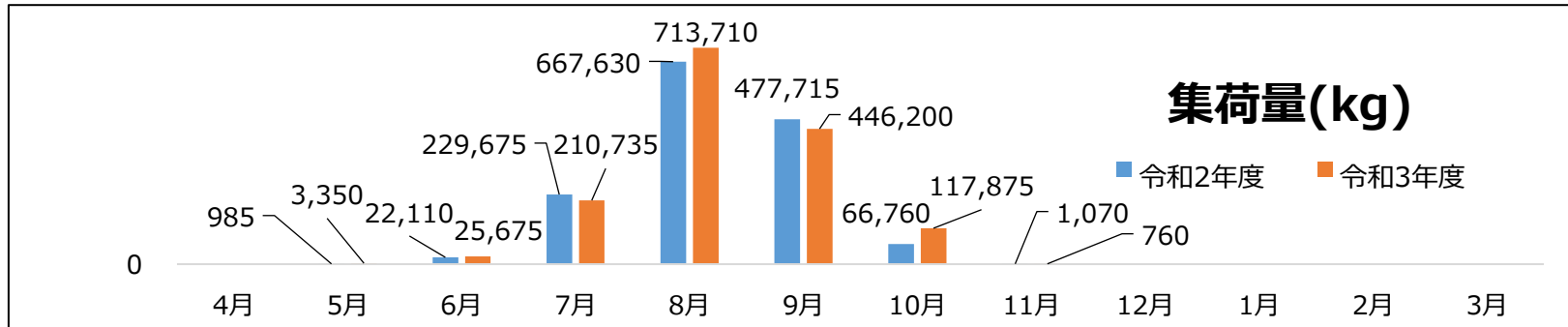
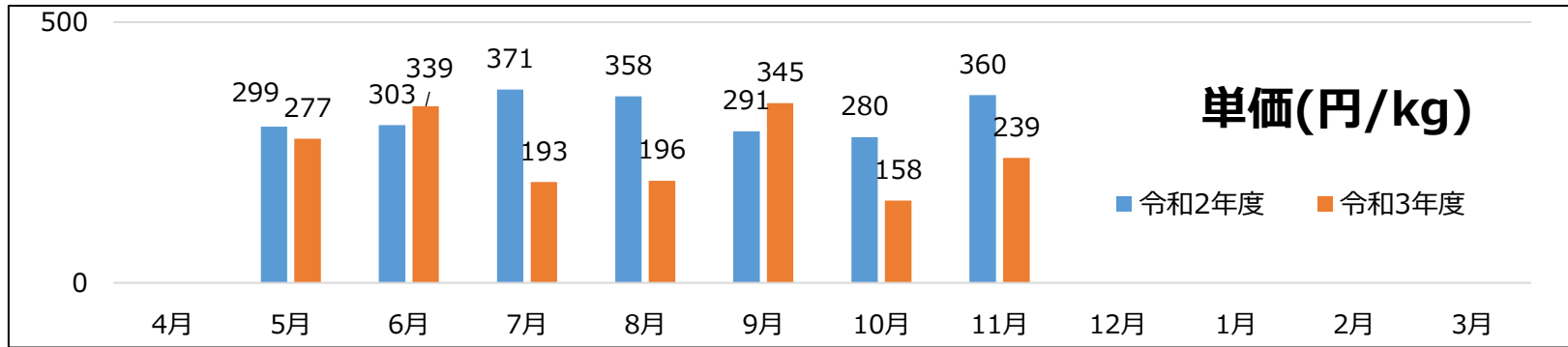
きゅうりの販売額の伸び悩み（JAかづの販売額データ）

きゅうり				
年度	戸数 (戸)	面積 (ha)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)
21	231	21.4	1,656.0	8,056
22	212	20.2	1,710.5	8,900
23	179	17.8	1,692.3	9,756
24	173	17.1	1,812.7	11,241
25	156	15.5	1,665.3	11,600
26	146	13.8	1,640.5	11,888
27	142	11.8	1,604.4	13,597
28	142	11.7	1,626.0	13,897
29	138	10.8	1,452.0	13,444
30	132	10.4	1,368.0	13,154
R1	132	10.4	1,559.6	14,996
R2	132	12.0	1,465.9	12,216
R3	134	10.4	1,518.3	14,599
JAかづの販売実績（鹿角市分）				



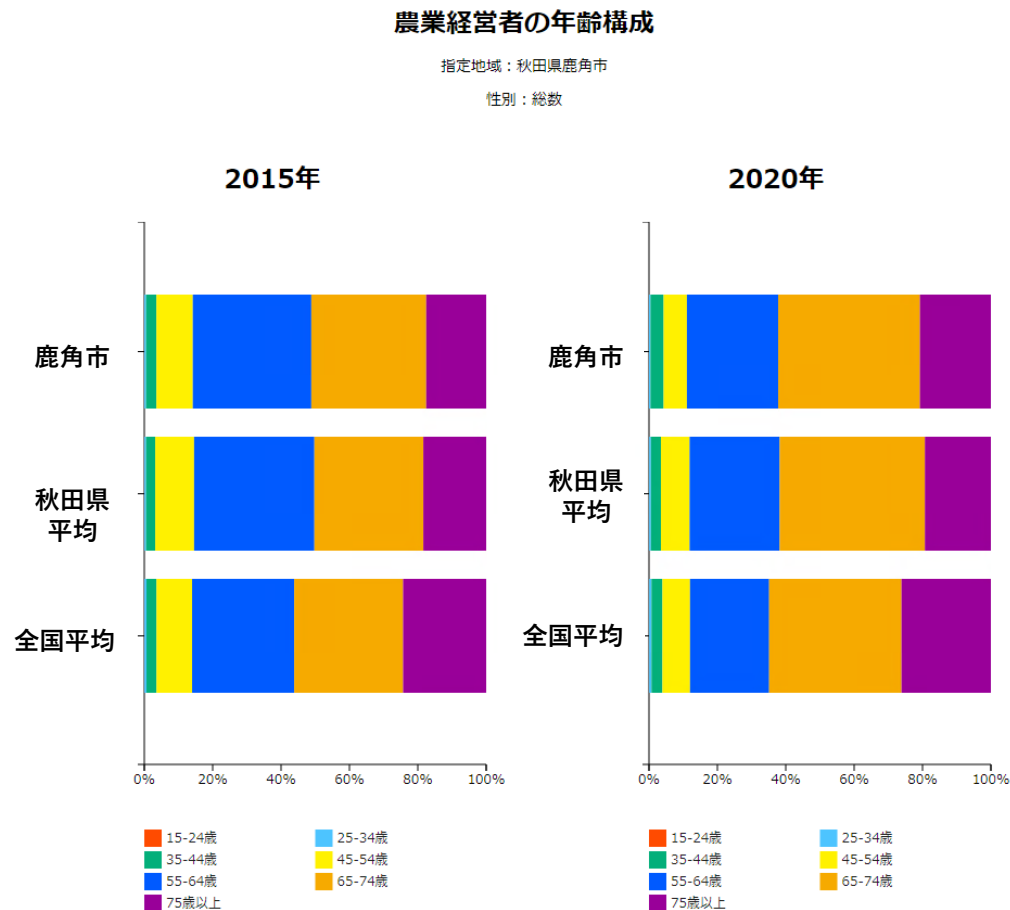
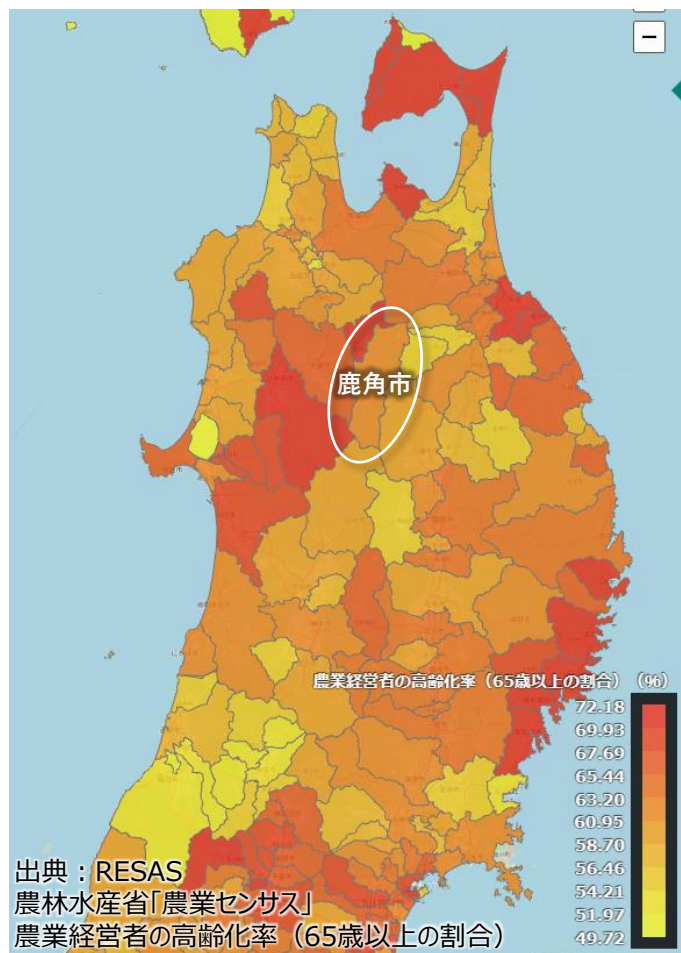
- 生産者数、面積は減少傾向→ここ数年は横ばい。
- 単収の向上により、生産量を維持している。あわせて販売額も横ばい傾向。（市場価格に大きく左右される。）

きゅうりの販売額の伸び悩み（JAかつの販売額データ）



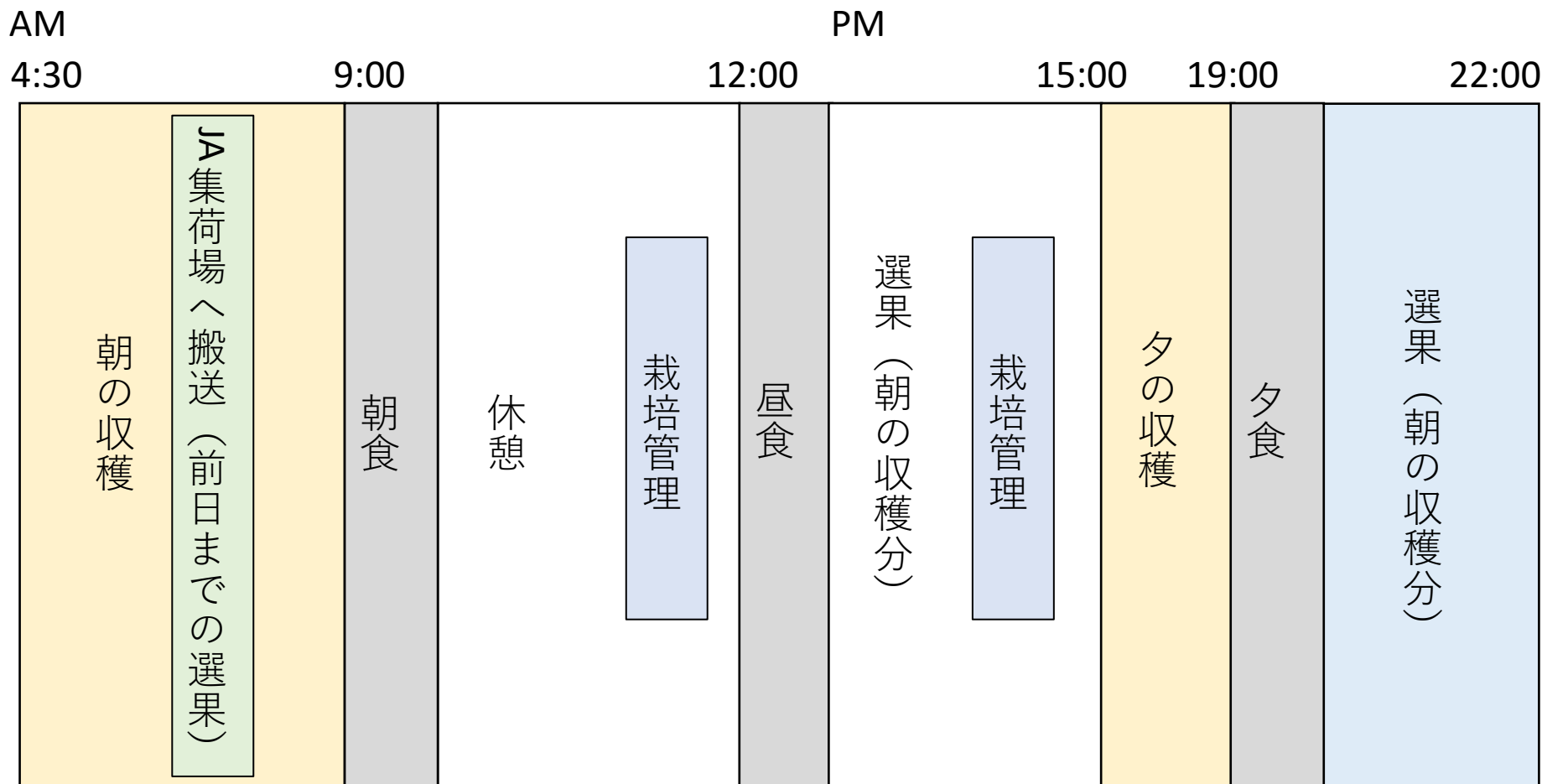
- ・ 市場単価は、月・年で変動。
- ・ 収穫は7月から採れはじめ、8-9月がピーク。
- ・ 販売額は市場単価に左右される。

きゅうりの販売額の伸び悩み（農業者・従事者の高齢化）



- 農業経営者の高齢化率(62.22%)は秋田県平均(61.66%)に近い。→全県的に高齢化が進行
- きゅうりに限らず、**生産者の高齢化が進行している。**
- 基幹的農業従事者の高齢化率(72.67%)も同様。

あるきゅうり農家の一日（8月の最盛期）



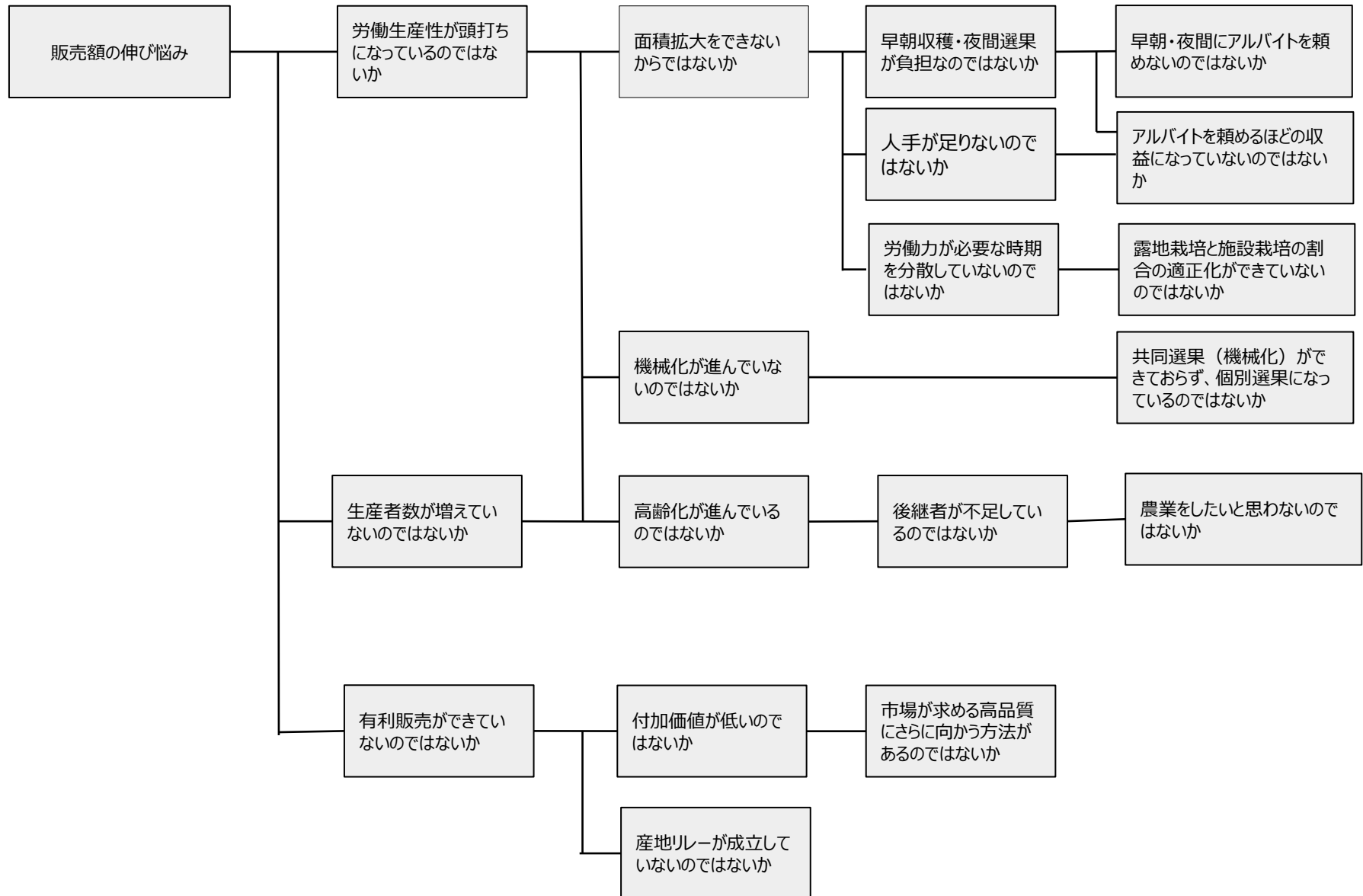
- きゅうり露地栽培30aだと、経営指標上では計算上は36時間/1日あたりの労働時間
→家族4人総出で休日なしの計算となる。

SWOT分析（鹿角のきゅうり）

内部環境	強み（strength）	弱み（weakness）
	・露地栽培なのに非常に高い単収(平均14t/10a)、県内一の生産量、R3販売額:3.6億円 ・生産者の技術が高い（栽培管理・土づくり・灌水システム） ・露地栽培に適した気候（収穫期間が長い）。初期投資がグッと抑えられる。 ・生産者がJAに出した日に市場に出荷 ・個別選果で高品質、手数料も安い ・新規就農者が比較的多い	・高単収を支えているのが人力と家族労働（朝・夕の収穫選別作業）のため、一経営体当たりの作付上限は20-30a。スケール化できない。 ・労働がきつい（早朝収穫、夜中選別） ・共同選果が導入されていない ・生産者の高齢化 ・ハウス栽培が進んでいない ・灌水システムの導入は約5割 ・販売額が伸び悩んでいる
外部環境	機会（opportunity）	脅威（threat）
	・寒冷な気候による産地リレー ・市場から一定の評価（独自規格22→21cmが若干高値） ・安定した市場価格（消費者からのニーズが安定している）	・気候などによる産地リレーのずれ→低単価 ・ブランドになっていない（高品質が市場で評価されていない）

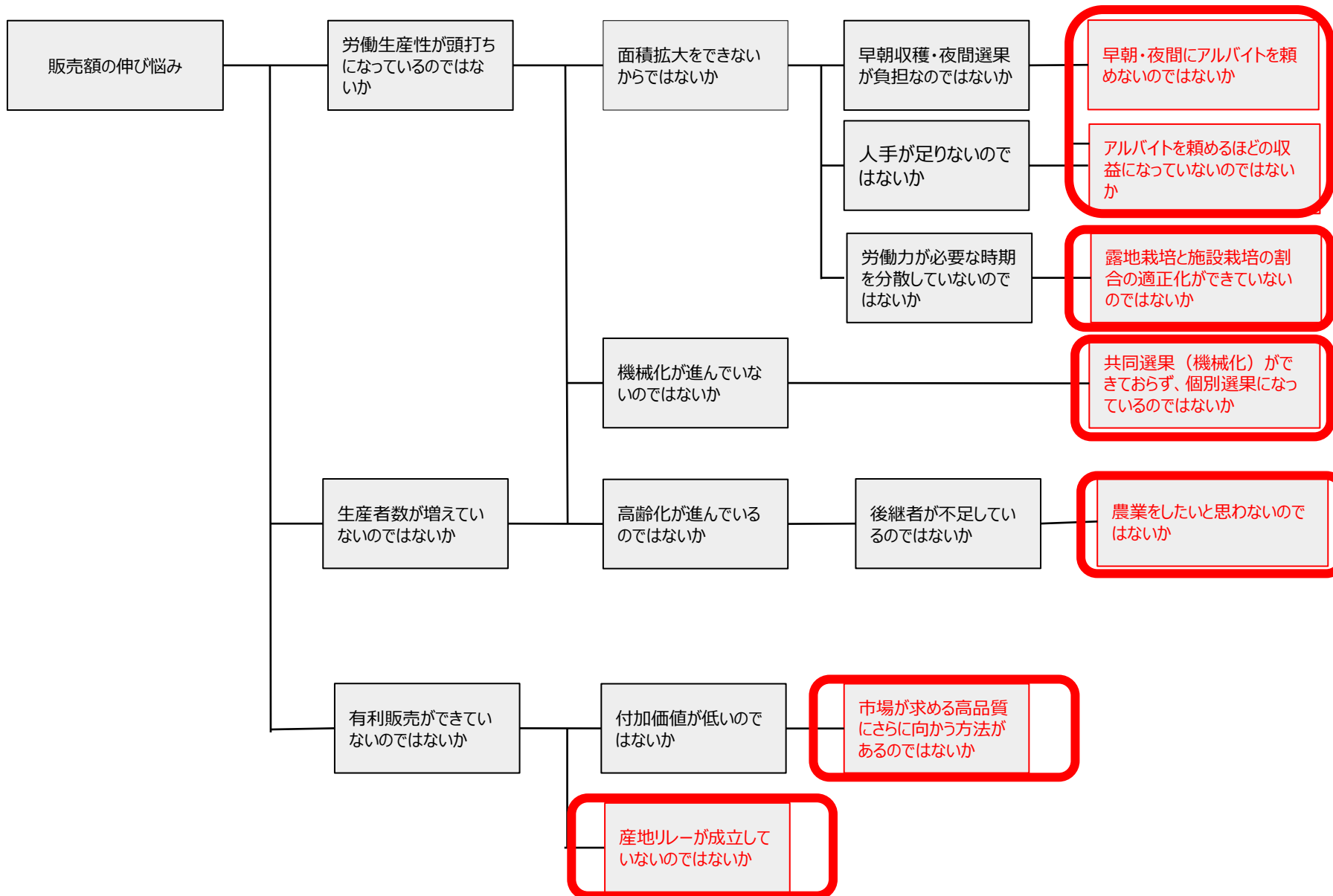
注力すべき問題点：きゅうりの販売額の伸び悩み

注力すべき問題点の仮説を構造化



構造化した仮説から問題点の主要因を抽出

主要因



早朝・夜間にアルバイトを頼めない

早朝・夜間にアルバイトを頼めないのではないか

【令和4年1月改訂】秋田県の有効求人倍率（季節調整値）一覧

西 暦	和 暦	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	年 計	年度計
2011年	平成23年	0.48	0.50	0.50	0.49	0.48	0.51	0.54	0.56	0.57	0.58	0.60	0.62	0.53	0.57
2012年	平成24年	0.64	0.63	0.65	0.68	0.70	0.70	0.69	0.70	0.69	0.69	0.68	0.70	0.68	0.69
2013年	平成25年	0.67	0.68	0.69	0.69	0.69	0.70	0.71	0.72	0.74	0.76	0.78	0.80	0.72	0.76
2014年	平成26年	0.84	0.86	0.88	0.88	0.88	0.89	0.90	0.91	0.91	0.95	0.96	0.99	0.90	0.94
2015年	平成27年	1.01	1.01	1.02	1.02	1.03	1.02	1.07	1.09	1.08	1.09	1.09	1.08	1.05	1.07
2016年	平成28年	1.08	1.09	1.08	1.11	1.14	1.16	1.21	1.20	1.21	1.20	1.24	1.26	1.16	1.21
2017年	平成29年	1.28	1.27	1.29	1.30	1.34	1.36	1.36	1.37	1.40	1.42	1.44	1.45	1.35	1.41
2018年	平成30年	1.49	1.47	1.55	1.54	1.51	1.52	1.54	1.54	1.54	1.55	1.53	1.52	1.52	1.53
2019年	平成31年	1.53	1.54	1.52	1.52	1.50	1.49	1.46	1.43	1.43	1.50	1.46	1.47	1.48	1.45
2020年	令和 2年	1.43	1.39	1.38	1.35	1.27	1.25	1.22	1.21	1.21	1.22	1.25	1.27	1.29	1.28
2021年	令和 3年	1.34	1.33	1.35	1.38	1.44	1.48	1.53	1.53	1.53	1.51	1.47	1.47	1.44	1.49
2022年	令和 4年	1.54	1.53	1.51	1.53	1.52	1.50	1.49	1.50	1.48					

ハローワーク別求人・求職状況（令和4年9月）

ハローワーク別 項目	能代	大館	鷹巣	鹿角	県北計	秋田	男鹿	本荘	中央計	大曲	角館	横手	湯沢	県南計	局計
有効求人倍率	2.34	1.73	1.6	2.13	1.98	1.47	1.53	1.63	1.51	1.42	1.33	1.47	1.44	1.44	1.59
常用	2.18	1.65	1.52	2.02	1.87	1.35	1.16	1.44	1.36	1.15	1.17	1.36	1.32	1.26	1.44

- 有効求人倍率が高止まりで鹿角は県内でも上位。この状況で農業に人手を求めるのは難しい。

アルバイトを頼めるほどの収益構造になっていない

アルバイトを頼めるほどの収益になっていないのではありませんか

路地夏秋（6-10月）

面積(a)	30
粗収益(円)	7,800,000
所得(円)	4,244,340
所得率	54.4%

施設抑制（8-11月）

面積(a)	30
粗収益(円)	4,356,000
所得(円)	1,862,580
所得率	42.8%

施設半促成（5-7月）

面積(a)	30
粗収益(円)	6,372,000
所得(円)	3,495,291
所得率	54.9%

所得率は決して低くはないが、
労働集約型作物であるため、
人手が増えたとしても作付け面積や販売額が単純に増加するわけではない



アルバイトを頼むと作業は楽になる



一方で手取りが減る

- 家族労働で成り立っており、現状のままアルバイトを頼むと所得が単純に減少する。

露地栽培と施設栽培の割合の適正化ができていない

露地栽培と施設栽培の割合の適正化ができていないのではないかな

2020センサス 販売目的のキュウリの作付面積

きゅうり（経営体数）															
		路地								施設					
		経営体数		順位		面積（a）		順位		1経営体あたりの面積		順位		1経営体あたりの面積	
市町村	経営体数	順位	経営体数	順位	面積（a）	順位	1経営体あたりの面積	順位	経営体数	順位	面積（a）	順位	1経営体あたりの面積	順位	比率
1 秋田県	846		638		6,617		10.4		294		1,585		5.4		80.7%
2 鹿角市	122	2	120	1	2,246	1	18.7	1	18	7	96	7	5.4	4	95.9%
3 横手市	139	1	110	2	1,435	2	13.0	4	48	1	216	3	4.5	6	86.9%
4 湯沢市	85	3	60	3	694	3	11.6	5	38	2	423	1	11.1	2	62.1%
5 由利本荘市	58	6	38	7	553	4	14.6	2	24	5	45	8	1.9	11	92.5%
6 羽後町	45	9	34	8	452	5	13.3	3	18	7	236	2	13.1	1	65.7%
7 北秋田市	45	9	39	6	419	6	10.7	6	7	12	34	9	4.8	5	92.6%
8 大館市	49	7	29	9	172	7	5.9	10	26	4	109	6	4.2	7	61.3%
9 秋田市	66	5	51	5	150	8	2.9	14	17	9	22	11	1.3	14	87.2%
10 大仙市	78	4	55	4	140	9	2.5	16	31	3	129	5	4.2	8	52.0%
11 三種町	18	13	12	12	74	10	6.2	8	6	14	14	13	2.3	10	84.5%
12 美郷町	30	10	16	10	63	11	3.9	11	18	7	182	4	10.1	3	25.7%

- 県内他市町村に比べ、施設栽培の面積比率が一番低い。

共同選果（機械化）ができていない

共同選果（機械化）ができておらず、個別選果になっているのではないか

機械化できる作業は少ないが・・・



大きな産地では共同選果が進んでいる

	個別選果 （個人が手作業で等級分けし 箱詰め）	共同選果 （共同選果場で機械が選果・ 箱詰め）
メリット	手数料がかからない 鮮度が良い状態で市場へ 精度・品質が高い選果が可能	個々の生産者の作業時間が減る
デメリット	長時間労働	手数料がかかる

- 共同選果などの労働力支援があれば、産地としての増産体制が進むのではないか。

農業をしたいと思わない

農業をしたいと思わないのではないか

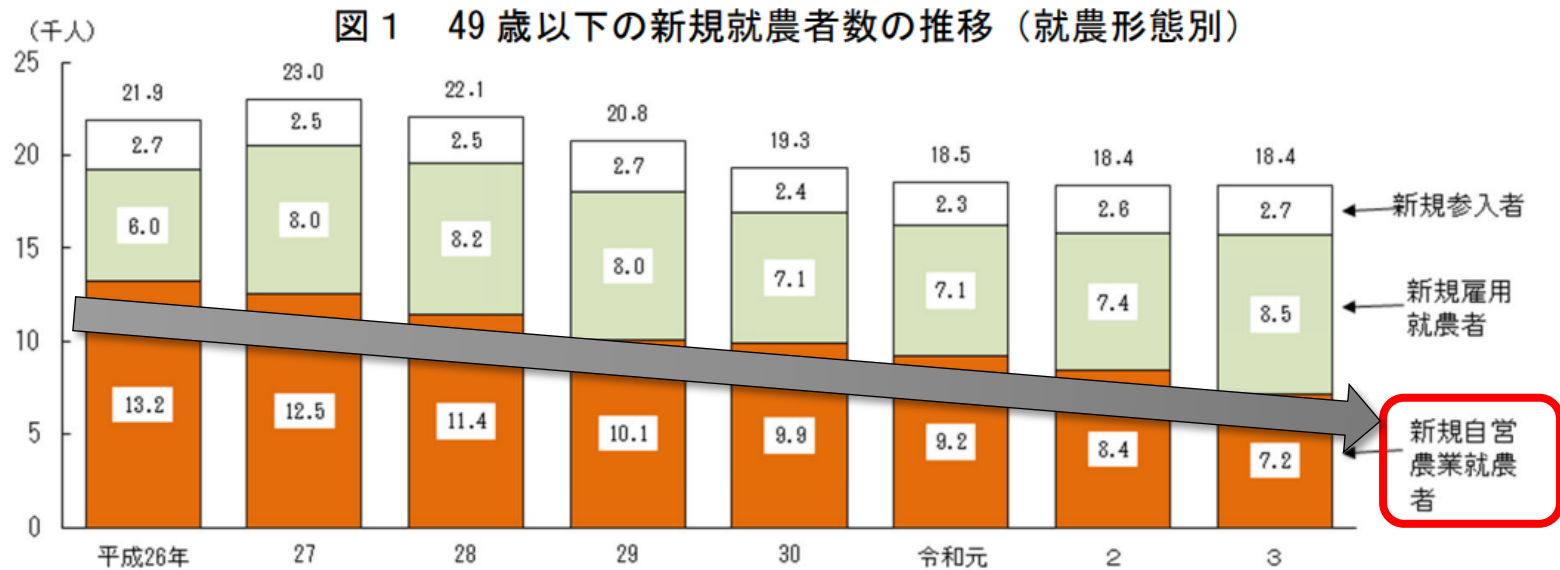


表2 新規自営農業就農者数

単位：人

区分	計	49歳以下	男女別	
			男	女
令和2年	40,100	8,440	29,550	10,550
3	36,890	7,190	28,860	8,030
増減率(%)	△ 8.0	△ 14.8	△ 2.3	△ 23.9
構成比(%)				
令和2年	100.0	21.0	73.7	26.3
3	100.0	19.5	78.2	21.8

- 新規参入者：農外からの新規参入
- 新規自営農業就農者：家業の農業を承継又は実家が農家

- 家業の農業の後継として就農する方は、全国で見ても年々減少している。

04

農業分析

鹿角市のきゅうりの販売
額を増加させるために

7次総を踏まえた既存施策の整理



「農業生産」への対応策（内部的）

- ◆省力化・収量増（ハード）
- ・スマート農業推進事業（**拡充**）
- ・各種機械等導入支援に関する事業（**継続**）
- 【期待する効果】高齢化への対応。収量・品質の増加。
- ◆人手不足（ソフト）
- ・農業サポーターマッチング事業（**拡充**）
- 【期待する効果】人材確保による生産拡大

- ◆担い手不足（新規就農者の増加）
- ・新規就農者育成支援事業（**拡充**）
- 【期待する効果】人材確保による生産拡大、

鹿角市第7次総合計画との関連性

基本戦略1_活力を生む地域産業・生業を支える
 取組方針1_地域産業の成長を支援します
 ③効率的な農林業経営による経営安定と競争力の強化
 ④生産基盤の整備による農業生産力の維持・向上

取組方針2_市民等の意欲ある就労・就農を支援します
 ③農林業の担い手育成と定着支援

解消したい要因

早朝・夜間にアルバイトを頼めないのではないか

アルバイトを頼めるほどの収益になっていないのではないか

露地栽培と施設栽培の割合の適正化ができていないのではないか

共同選果（機械化）ができておらず、個別選果になっているのではないか

農業をしたいと思わないのではないか

マーケットインの考えから出発して 作付け拡大 or 単収向上 or 新規就農

「流通経路」への対応策（外部的）

- ◆価格へ転嫁できる取り組み（有利販売）
- ・農畜産物販売促進事業、アグリビジネス支援事業（**継続**）
- 【期待する効果】
- ブランディング
- 域内流通（観光・食品製造との連携）
- 他市場、ふるさと納税、ECサイト
- 系統出荷（まずはゼロ予算、県・JAと連携）

鹿角市第7次総合計画との関連性

経営戦略1_まちに人・モノ・外貨を呼び込む
 取組方針23_販売重視型農業と6次産業化を進めます
 ①、②、③

解消したい要因

市場が求める高品質にさらに向かう方法があるのではないか

産地リレーが成立していないのではないか

7次総を踏まえた新たな施策の検討

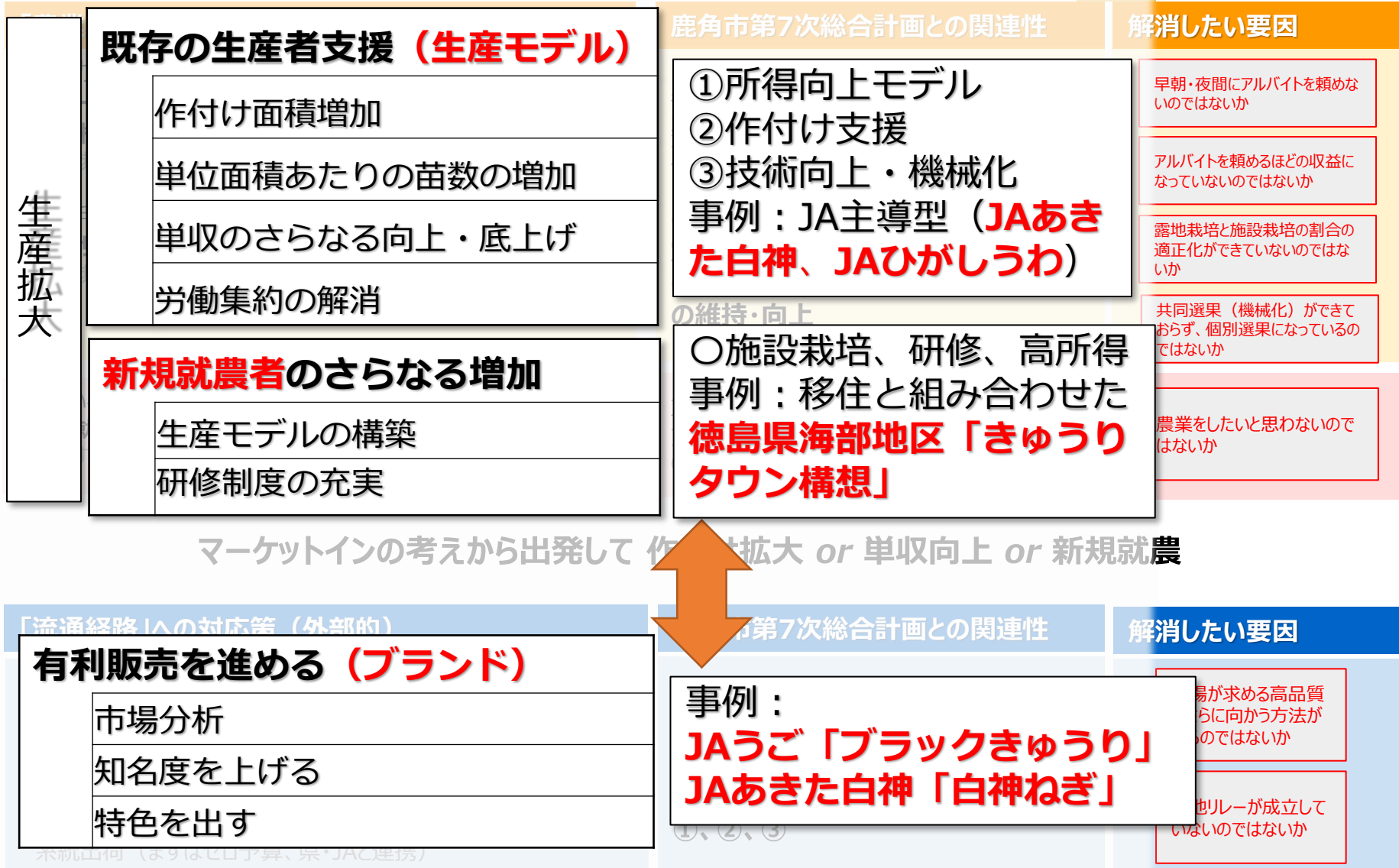


生産拡大	鹿角市第7次総合計画との関連性		解消したい要因
	既存の生産者支援（生産モデル）	基本戦略1_活力を生む地域産業・生産を支える 取組方針1_地域産業の成長を支援します ②効率的な農林業経営による経営安定と競争力の強化 ③生産基盤の整備による農業生産力の維持・向上	早朝・夜間にアルバイトを頼めないのではないか アルバイトを頼めるほどの収益になっていないのではないか 露地栽培と施設栽培の割合の適正化ができていないのではないか 共同選果（機械化）ができておらず、個別選果になっているのではないか
新規就農	新規就農者のさらなる増加		農業をしたいと思わないのではないか
	生産モデルの構築 研修制度の充実	取組方針2_市民等の意欲ある就労・就農を支援します ④農林業の担い手育成と定着支援	

マーケットインの考えから出発して 作付け拡大 or 単収向上 or 新規就農

鹿角市第7次総合計画との関連性		解消したい要因
鹿角市第7次総合計画との関連性		市場が求める高品質にさらに向かう方法があるのではないか
鹿角市第7次総合計画との関連性		産地リレーが成立していないのではないか

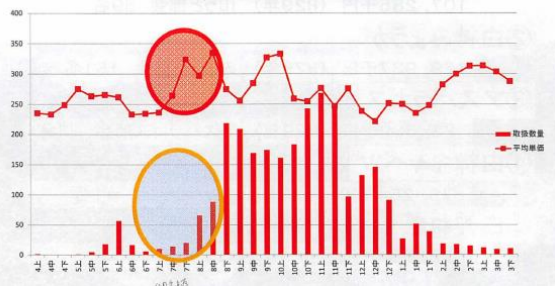
7次総を踏まえた新たな施策の検討



[A] JAあきたしらかみの事例

・現状の「白神ねぎ」の分析

当初管内の「白神ねぎ」の作付体形は...
周年出荷を掲げるものの、高単価時の
取扱い数量は非常に少ないものであった



「白神ねぎ」販売経緯 年度別販売実績



新規作付者・生産面積の増加により、年々の販売額も増加傾向
ねぎ部会、当組合の永年の悲願である10億円販売達成まで、あと一歩！！
そこで、

秋田県山本地域振興局 能代市 藤里町 JAあきた白神ねぎ部会
上記、関係機関より趣旨に賛同を得ることができ、
平成25年2月

「白神ねぎ」10億円販売達成プロジェクトチームを発足

「白神ねぎ」10億円販売達成プロジェクトチーム活動内容

三つのプロジェクト方針

- ①作付面積の増反推進
- ②販売単価の更なる向上・維持
- ③反収のUP



悲願！！
10億円販売達成！！

①作付面積の増反推進

平成25年2月「白神ねぎ」10億円販売達成プロジェクト補助金を施行
昨年度対比で作付拡大した生産者へ10名あたり20,000円を支給

25名の生産者（新規作付者含む）が申請（平成25年度）

- 5. 6haの作付拡大に成功（平成25年度）
- 3. 5haの作付拡大に成功（平成26年度）
- 4. 4haの作付拡大に成功（平成27年度）
- 7. 7haの作付拡大に成功（平成28年度）
- 6. 2haの作付拡大に成功（平成29年度）

今年度も同内容の補助金制度を施行

（26年度からは、主要5品目へも拡大助成）

「白神ねぎ」知名度向上対策

②「白神ねぎ」ポスター・のぼり・裃の作成



これらの販促グッズを活用し、

「白神ねぎ」

という文字を市場、消費者の目に直接訴えて、

知名度向上、ブランド化の確立に努める



③反収のUP

①「白神ねぎ」の作付面積の拡大

②知名度向上に販売単価のUP

何よりも絶対不可欠なもの...

そのために.....

「白神ねぎ」生産者個々のスキルアップ
反収増 更なる品質向上 生産意欲向上

営農指導活動の徹底

これまで以上に、積極的な指導巡回の実施

特に、新規作付者や、前年度収量の上がらなかった
生産者をリスト化し、スキルアップに努める

- ・ 白神ねぎのブランド化、販売目標10億を目指し、市場分析を行い、これに合わせた増産体制を整え、達成した。

[B] JAひがしうわ(愛媛県)の事例

きゅうり部会の高齢化

課題



出荷量減少（過去最高額の半分）

- ・効率化が見込めない
- ・新規就農者が見込めない

課題



JAえひめ南と共同選果を開始

対応策



生産者を確保し、選果機の効率利用

対応策



**生産量が増え、市場からの引き合い
販売単価向上**

成果

- ・ 生産者を確保し、共同選果に取組。生産量が増え、効率利用→単価向上。

[C]徳島県海部地区「きゅうりタウン構想」の事例

生産者の高齢化・担い手不足

課題



農家数（最盛期 1 / 4）

課題

・地区全体でも人口流出



JAかいふと行政が協力

対応策



「きゅうりタウン構想」

・移住就農を促進

[2025目標]
ハウス栽培面積10ha
30t/10aへ単収向上
所得1000万円/30a

対応策



移住就農増（生産者の平均年齢若）
単収向上

成果

- きゅうり産地が衰退。産地拡大のため、経営モデルを作り移住者を獲得する構想作成→実行。

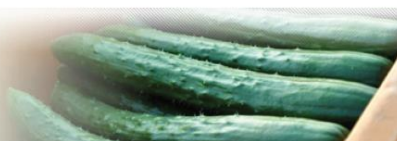
[D] JAうご「ブラックきゅうり」の事例

JAうごの最高級きゅうり

🏠 ホーム / JAうごのきゅうり

「昔のきゅうりは、美味しかった…」
あの味を、もういちど現代に蘇らせたい

JAうご産 **きゅうり** **最高級**



お知らせ ブラックきゅうりご購入等のお問い合わせについて

「ブラックきゅうり」は、JAうごから直接ご購入いただく事はできません。市場においても数量が極めて少なく貴重なため、需要の高い商品となっております。

「ブラックきゅうり」は、全量大田市場様へ出荷され、その後各地の青果店様等へ流通されておりますが、流通先まではお伝えできない状況となっております。誠に申し訳ございませんが、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

日本の市場で最も高い評価を得ている

JAうご産きゅうり 通称「ブラック」

日本の市場で最も高い評価を得ているきゅうりは、JAうごで生産されています。

JAうご管内の羽後町元西地区は、30年以上前から中央統一市場（現・大田市場）で「最高級きゅうり」の一つとして扱われてきた「元西きゅうり」の産地です。JAうごはその伝統を受け継ぎ、工夫と改良を積み重ねて、最高品質のきゅうりを作りつづけています。

現在、JAうごのきゅうりは大田市場に「**超一流品**」と評価され、**全国**のきゅうりの相場を決定するひとつの指標となっているそうです。



“ブラック”という異名を持つ最高級きゅうり

市場からも最高品質と認められたJAうご産きゅうりは、市場での流過程で「数ある箱のなかで、ひと目で判断できるようにして欲しい」という声が寄せられるようになりました。野菜といえば茶色か白のダンボールが主流。その中、このJAうご産きゅうりだけがひと際目立つ『**ブラックダンボール**』で流通するようになったことから、生産農家や業界の人々はこう呼ぶようになりました。

JAうご最高級きゅうり＝通称『**ブラック**』と。

- 品質が市場で高い評価を受けブランド化。

05

農業分析

今後の鹿角市のきゅうり の目指す方向

鹿角のきゅうりの現在の強み

◆ これまでの分析から、既にある強みとは……

➤ 生産者の高い技術



- 単収が高い
- 市場ニーズに合わせた規格のきゅうりを生産する技術
- 市場と協力し、新たな品種を積極的に生産する技術



旧規格 (5kg)	新しい規格 (5kg)	5kg記載例
AL	→ AM	等級 規格 A M
		22cm~24cm 曲がり1.5cm以内 14~15本2段16本
AM AS	→ A	等級 規格 A
		21cm~22.23cm 曲がり1.5cm以内
BM BS	→ S	等級 規格 S
		21cm~22.23cm 曲がり2cm以内 12本~13本 50~52本
	→ SS	等級 規格 SS
		21cm~22cm 曲がり2cm以内 (14本×2列×2段)
(10kg) A B	→ A	箱満杯詰め (80本以上)
		20cm~24cm 曲がり5cm以内
無印	→ B	箱満杯詰め (85本以上)
		20cm~27cm 曲がり5cm以内

これらの強みを活かし、他地域と差別化することで

鹿角産きゅうりの「ブランド化」を図りたい！

鹿角のきゅうりの目指す方向（仮説）

◆ 他地域との差別化のために……

● 新たな生産モデルをつくる！

- 施設栽培の導入
- 出荷期間の延長
- 所得の増加
- 作業の平準化
+ DX
+ 共同選果

POINT!!

- これまで培ってきた高い生産技術を活かし伸ばすことで、生産量の増加を目指す！！

鹿角のきゅうりの目指す方向（仮説）

◆ 他地域との差別化のために……

● 新規就農者の獲得を目指す！

- 生産技術の横展開
- 生産者部会の組織力強化
- 若者に魅力ある所得の確保
- // 栽培体系の構築
- 就農希望者に向けて、鹿角のきゅうり生産の魅力をPR
+ DX
+ 共同選果

POINT!!

- ・ 新規就農者は身近に高い生産技術を持った、生産者からノウハウを学ぶことができる。
- ・ きゅうり生産は、初期投資が少ないため、取り組みやすい。短期間で成果が出る。

鹿角のきゅうりを盛り上げるために！

① 現在の強み

- **生産者の高い技術**
- 単収が高い
- 市場ニーズに合わせた規格のきゅうりを生産する技術
- 市場と協力し、新たな品種を積極的に生産する技術

② 生産量の増加を目指す

● 新たな生産モデルをつくる！

- 施設栽培の導入
- 出荷期間の延長
- 所得の増加
- 作業の平準化
- + DX
- + 共同選果

👉 本日議論していただきたいトコロ

● 新規就農者の獲得を目指す！

- 生産技術の横展開
- 生産者部会の組織力強化
- 若者に魅力ある所得確保
- 若者に魅力ある栽培体系の構築
- 就農希望者に向けて、鹿角のきゅうり生産の魅力
をPR
- + DX
- + 共同選果

👉 本日議論していただきたいトコロ

③ ブランド力の向上

産地としての底上げへ！

06 活用の現場から

まとめ

(1) 活動内容

【令和4年】

- ・ 6月22日（水）ハンズオン支援「農業の現状分析」（オンライン）
- ・ 7月15日（金）ハンズオン支援「jSTATMAPでの直売所分析」（オンライン）
- ・ 9月21日（水）ハンズオン支援「農業の現状分析」（オンライン）
- ・ 11月2日（水）ハンズオン支援「SWOT分析・仮説の構造化」（オンライン）
- ・ 11月9日（水）ハンズオン支援「課題設定・課題分析・注力テーマの設定・打ち手の検討」
- ・ 11月24日（木）ハンズオン支援「課題設定・課題分析・注力テーマの設定・打ち手の検討」（オンライン）
- ・ 12月13日（火）ハンズオン支援「課題設定・課題分析・注力テーマの設定・打ち手の検討」（オンライン）

【令和5年】

- ・ 1月6日（金）政策立案ワークショップ打ち合わせ（有識者・内閣府）
- ・ 1月23日（月）政策立案ワークショップ打ち合わせ（有識者・内閣府）
- ・ 2月21日（火）RESASを活用した政策立案ワークショップ

(2) 取り組みへの感想と効果

- 抱えている業務の課題について、自分の頭だけで考えていたものが、文章や図などにわかりやすく落とし込むことができた。
- 課題解決に向けてどのようなツールや考え方を利用すればよいか、実践を通してしっかりと学ぶことができた。
- 課題解決に向けて、周囲や関係者の協力を引き出したり、良い意味で巻き込んでいくことが必要であることが理解できた。
- 行政側の視点だけではなく、施策の先の市民（今回はキュウリ生産者）の利益になること、この点からぶれないように、考え方を導いていただきながら、課題とうち手を深掘することができた。
- 施策の本質である、良い意味での行動変容にどのようにしたらつながるか、ワークショップの際にこの視点から外れないような資料に作りこむことができた。
- RESASはもとよりRESAS外のツールの活用についても指導いただいた。この活用と考え方は一部門だけではなく、市役所内に広めていきたい。

STAFF

【産業部】

産業活力課	産業戦略班	政策監兼班長	成田	靖浩
産業活力課	観光交流班	政策監兼班長	黒澤	香澄
農業振興課	ブランド作物推進班	政策監兼班長	阿部	卓也
農業振興課	構造改革推進班	政策監兼班長	佐藤	寛

SPECIAL THANKS

【東北経済産業局】

企画調査課	企画係長	小林	将隆様
企画調査課	地域経済分析システム普及活用支援調査員	丹尾	和喜様
企画調査課	地域経済分析システム普及活用支援調査員	山本	雄麻様
企画調査課	地域経済分析システム普及活用支援調査員	福田	剛道様